

五十騎組

先祖由緒帳

御清水町

村越持

先祖書立之覺

国分次右衛門

一、国分美濃守胤元、本姓は千葉介 二御座候、世々下総

国 二罷在候所 二、越後江罷越御奉公申上候時分、名字

改可申由上意 二御座候付、国分美濃守 二罷成候、

右美濃嫡子国分太郎助胤、右太郎実子国分彦右衛門

胤良 △政景様御時、国分佐渡守、栗林肥前守、

深沢主計、右三人御国之御家老被 仰付御奉公

申上候、然所ニ永禄元年二月二日ニ死去仕候、△国分

新左衛門胤広、後ニ兵部大輔と申候、永禄年中、

謙信様関東御出陣被遊候時分、上野之内於沼田

之庄先陣仕、永禄六年五月六日ニ三拾五歳ニ而討死

仕候、謙信様被賞忠儀、胤広嫡子彦五郎は、

政景様於野尻之池ニ御生害之御時、胤吉御

劔之御側ニ持罷有死去仕候ニ付而、次男善五郎

正胤、於越後右新左衛門跡式被仰付候、後ニ左馬助ニ

罷成、景勝様御代、福嶋掃部、国分左馬助、右両人ニ

宰配頭被仰付御奉公申上候、△国分朝左衛門胤

広三男国分次右衛門胤成、慶長四年、為御鉄炮

大将百人段母衣被 仰付、同拾五年、宰配頭被

仰付御奉公仕候、同十九年、大坂騒乱ニ付而百人段母

衣余人江被仰付、宰配頭迄ニ而大坂兩御陣相勤候、

元和七年七月二日ニ病死仕候、無実子御座候付、次右衛門

甥平田尾張次男、拙者ニ跡式被 仰付、御奉公申上候

所ニ、綱憲様寛文七年ニ御足輕組被 仰付、同拾年、

三十人頭被 仰付、延宝元年ニ宰配頭江戸於

御前ニ被 仰付、当年迄御奉公申上候、以上

佐藤小右衛門

一、私先祖之儀、同姓市郎右衛門惣領ニ御座候付、書付差

上申通ニ御座候、父佐藤甚助、寛永二年ニ相果申、拙者

之儀、寛永三年拾四歳ニ而 定勝様御近習ニ御奉公

申上、其已後大小姓ニ被召加、 綱勝様江戸御登候時分

抱御守ニ被 仰付、正保二年ニ御知行百石被下置、御入国

之年御加増貳百石拝領、万治三年ニ蒙御不審、貳

百石ニ罷成、寛文八年ニ足輕組御預、御加増百石拝

領、同十三年ニ三十人頭被 仰付、御奉公申上候、以上

目崎三郎左衛門

一、先祖代々越後御譜代ニ御座候、神王堂之内

致拝領知行仕候、祖父目崎三郎左衛門、天正九年、小

栗山ニ而加増被下置候、御朱印所持仕候、慶長二年ニ越

後越中之境落水之城へ発知新左衛門相給ニ而、祖父

三郎左衛門差遣候、其刻頸城之郡西浜沼川之保内

羽生村、草午村ニ而式百石宛之加増被下置書付所

持仕候、慶長三年会津江御国替、其後御当地迄御

供仕、御奉公申上候 △養父三郎兵衛、御当地ニ而家督

仕候、大坂陣之刻、御手明鉄炮組十人引廻、両御陣

共二御供相勤申候、寛永元年、定勝様始而

加増被下置候刻、三郎兵衛も貳百石ニ被仰付候、其後

正保三年、綱勝様御代、鉄炮御足輕組五拾人

御預加増被下置、三百石ニ被仰付候 △右之三郎兵衛、

慶安四年ニ病死仕候、男子持不申ニ付、小川源左衛門三男

拙者聲名跡ニ仕家督、貳百石ニ被仰付候、其後

延宝元年、御当代鉄炮御足輕組四拾人御預、百石之

加増被下置、御奉公申上候、以上

青木新右衛門

一、曾父青木新左衛門、越後上田御譜代ニ御座候、境と

申所物主ニ被差置候、其節御朱印未所持仕候、春日

御城大手並ニ罷有由承及候、新左衛門拝領仕御書

付年号之写、天正九年、同拾壹年、同十四年段々御知行

如此被下置候、景勝様御朱印未所持仕候、并新

癸田落城之時分御鉄炮組被仰付、御陣ニ罷立刻

城中ニ而鎧合討死仕候 △右実子祖父新右衛門、幼稚之

時分、親新左衛門跡式被 仰付、成仁之上春日御城ニ

御番相勤、尤若松米沢迄御供仕御奉公申上候処ニ、

新左衛門儀被思召付由ニ而、御加増拝領仕貳百石、景勝様

御取立被遊候刻、御加増知所被下置、平林藏人印判之

書付未所持仕候、其後御鑓組五十人被仰付、定勝様

御代寅之年御上洛之刻、御鑓百挺大将被仰付

御先乗仕候、上下御供相勤申候、其節相渡候道中

御法度書未所持仕候、其後御加増拝領三百石ニ被

仰付、其已後、宝永拾五年諸組御足輕之内、第一御譜

代并見懸能者、其上年頃御揃、長手御鑓百挺御取

立、組江入交ニ被遊、新右衛門、水越左馬之助兩人ニ五十人宛

被仰付、其以後三十人頭被 仰付、 綱勝様明曆

元年御入国、江戸より御供仕罷下、年寄申 二付而隠居仕候

△右実子拙者親角兵衛、眼病 二付御奉公不罷成候、

依之祖父新左衛門跡式拙者 二貳百石被下置、御当代

御鑓大将被 仰付、御加増百石拝領仕候、以上

神谷八右衛門

一、政景様御譜代、神谷将監上田 二罷有御奉公仕候、上野

原御合戦之時、御鑓組被 仰付引廻相働申候、其以後、

景勝様御代、御城近罷有御奉公公仕候由承伝申候、△

右將監跡式、実子藤右衛門幼少故少地被下置候、其已後

新発田御責候時分ハ、五十騎傍輩並ニ相働申候、会

津米沢迄御供仕候 △右藤右衛門実子清左衛門、若輩ニ而

家督仕、大坂両御陣御供仕候、 定勝様御代御加増

共ニ貳百石被下置、亥年御上洛騎馬ニ而御供仕、

其已後十人頭仕、慶安四年病死仕、実子某ニ無相 違

貳百石被不置、只今迄廿七年御奉公仕候、以上

高村弥左衛門

一、曾祖父富里三郎左衛門と申候、越後於上田御奉公相勤申候、

御書三通從 景勝様被下置、未所持仕候 △今程、高

村と名乗申儀、在名ニ御座候由申伝候、祖父高村次郎左衛門、

越後会津御奉公仕、大坂兩御陣ニも罷立候 △拙者親

次郎左衛門、御使番被召加、其已後六人年寄並ニ被

仰付、御奉公申上候所ニ、病氣故隠居仕、寛文七月ニ

跡式百石被下置候、以上

片桐權左衛門

一、片桐内匠儀、越後ニ而蒲原郡之内被下置、御奉公仕候、

新発田御陣之時分、一手之将被 仰付、御宰配迄被下置

數度之御奉公仕候、為御褒美北条之内壺ヶ所拝領仕、其

後天正十一年、栃尾之内北沢一ヶ所拝領、合三ヶ所致知行、

御朱印御感狀御宰配共ニ所持仕候、会津江御供仕

南之山将被 仰付、知行之儀は三百石被下置候、△内匠

年寄申付而、於会津隱居仕、多右衛門ニ名跡被 仰付、

内匠同前ニ被召仕、米沢迄御供仕、病死仕候ニ付、藤左衛門ニ

名跡被 仰付、大坂兩御陣之御供相勤、其後 定勝様

御代御加増被下置候、三百石ニ罷成、福嶋江御横目被 仰付

被遣候、右藤右衛門男子無御座候ニ付而、拙者之儀聳名跡ニ縁

約仕、隱居申立候所ニ、家督百石ニ被 仰付、 綱勝様御

代御加増百石被下置、貳百石ニ罷成候、以上

佐藤孫兵衛

一、越後已来、父甚助御奉公之品ハ、同姓一郎右衛門惣領ニ

御座候ニ付、書上申候、拙者之儀、寛永四年ニ定勝様

御目見被 仰付、翌年御扶持被下置、五十騎江被召加

御奉公申上候、寛永十九年十一月、江戸御台所頭被

仰付、御知行百石被下置、十四年江戸定詰仕、明暦元

年 綱勝様御入国之御供仕罷下、其年御加増百石

被下置、寛文十年江戸御役御赦免、五十騎江被召返、

御奉公申上候、以上

小幡喜兵衛

一、景勝様越後ニ被成御座候時、曾祖父小幡喜兵衛

府中ニ罷有候、其已後三条之内御中城被差置候、

三条之城ニハ甘粕近江被差置候 △知行御朱印

一通、替地御書判一通、未所持仕候 △宿送之

御朱印 一通未所持仕候 △御中城ニ被差置候時分、

直江山城守殿より被遣候御状、未所持仕候 △御中城ニ被

差置候時、三条之地ニ而御知行四百石被下置候刻、

河村彦左衛門、山田喜右衛門、窪田源右衛門所より之書出所持仕候、
会津江御国替ニ而御越之節、右喜兵衛病氣故御供不

仕、無程其年三月十二日、於御中城ニ病死仕候、男子無之ニ

付而、登坂左京次男名跡ニ被 仰付、拙者之祖父ニ御座候、

則喜兵衛と申候、御奉公之儀は大坂両御陣御供仕、御

上洛之御供両度仕、三拾人頭迄被 仰付候、右喜兵衛

実子九郎兵衛病死仕ニ付、拙者之儀熊田庄右衛門子ニ

御座候而、喜兵衛孫ニ御座候故、名跡ニ罷成、喜兵衛在世

之内御扶持被下置、十五年御奉公仕、喜兵衛跡式被

仰付、十九年御奉公仕候、以上

上村九郎兵衛

一、上村美濃尚季、越後ニ而執權被 仰付、其後相役

人ニ泉沢河内守信季御付被成候、美濃守料所只

見長岡之御判形、天正九年ニ被下置候、右之御

書ニ相応之用所等可申付也と被遊、御判形有之候、

仍天正七年二月清水藤左衛門と申者、河内美濃奉ニ而

浦沢之城代被 仰付候、御判形并兩人之名判

清水方未所持仕候、定而書写差上可申候、実子

兵部不肖ニ罷成、子細は名子屋御陣之時、安芸

広嶋と申所ニて御眼前ニ而召仕、狼藉仕御科ニ而

不肖ニ罷成候、段母衣組被 仰付、大坂御陣之節兩年

三十人頭始一番組被 仰付、病死仕候、実子彦右衛門

十八歳ニ而馬上並ニ被仰付、其後御使番ニ被召加、其

後江戸御城役ニ而病死仕候、拙者之儀九歳ニ而跡式

百石被 仰付、廿二年御奉公仕候、以上

佐藤市郎右衛門

一、祖父佐藤甚助、先祖より越後広瀬と申所ニ罷有、

謙信様御代所々御陣御奉公申上、天正六年

謙信様御逝去付、府内江相詰罷有候時節、栃尾

本庄清七郎企反逆、甚助在所江押寄妻女并弍

人之男子引取、其上色々以謀言、三郎殿御方江

一味可仕由申越候間、則言上申所ニ、所々右之逆徒

追払可申と余多人数被差越候付、甚助儀も先

達而相働申、依之清七郎引退申時分、男子兩人

害申候、天正八年、清七郎関東江引退申ニ付而、其跡江

甚助儀栃尾在城被 仰付、大関蔵人分被下置候由、

天正八年七月十五日、 景勝様御書未所持仕候、高

麗御陣之時分、庄内之小国と申所登坂甚兵衛と佐藤

甚助被差置候刻、直江山城守殿より御状未所持仕候、於

会津ニハ只見と申所ニ在城被 仰付候、御当地御打入之時

節、御足輕組御預ケ、貳百六拾石下置候内、百七十石余

草岡村ニ而所納仕、相殘分ハ信夫ニ而下置候得共、荒地故

差上申候、元和元年、 景勝様御代高畠御城代

被 仰付、御加増三百石被下置、本地共ニ五百石所納仕候

由、平林藏人書付所持仕候、寛永二年、高畠御城ニ而

病死仕候、此外申伝御座候得共、右勘助養子諸橋又三郎

と申者牢人仕候砌、数通之御書隠取罷出申、相殘分

右之通ニ御座候 △親勘助儀、右甚助実子ニ而高畠ニ

罷有候内、最上源五郎殿御勢遺候時分、父為名代

槍鉄炮其外同心馬上衆被召連、とやか森江罷越、須田

相模手二相加、御奉公申上候、親死去申二付、跡式貳百石

被下置、五十騎江被召加、正保元年、御使番被仰付、三百石二

罷成、万治二年三十人頭被仰付、寛文九年死去仕候、

△拙者之儀、右甚助実子、寛文十年父跡式五拾石

被下置御奉公申上候、以上

孫左衛門

浅間伊左衛門

一、曾祖父浅間石見儀、於越後二執權被仰付、右之

跡役上村美濃仕、其跡役泉沢河内ニ被 仰付候

御書ニ通所持仕候 △祖父同姓修理ニ若松ニ而長手

組五十人被 仰付、三間柄之御鑓候、信夫最上兩御

陣ニ御加勢御足輕召連罷立申候、△景之御 一字拝

領仕御書所持仕候 △親大膳儀大坂兩御陣ニ罷立、

其後御足輕組被 仰付、三手三拾人頭六人之時分

三十人頭被召加、其後又五人ニ被遊時分、御鳥毛三十鑓

被 仰付候、以上

一、先祖之儀、大井田権右衛門組之内、楠川四郎兵衛惣領二

御座候間、委細書上可申候 △親織部儀は越後二而誕

生仕年、祖父織部病死仕上、跡式安堵不仕罷有、

御国替之翌年会津江罷越、山岸中務聳二罷成、

拾人御扶持拝領仕御奉公仕、大坂両御陣御供仕、御帰

陣之後、元和二年二新御知行式百石拝領仕候刻、平林

蔵人印判未所持仕候、其上猪苗代組五拾人宛、今泉

左京、富井次郎兵衛、楠川織部三人二被 仰付候、 定勝

様御代二猪苗代組被召上、黒金上野壺人二被 仰付

候、其後五十騎江被召加、御留守番、御手明組被 仰付候、

寛永廿年二織部病死仕、実子拙者二跡式被下置、御奉公

申上候

西方次左衛門

一、曾祖父西方次郎右衛門、越後根知之御城二被差置候刻、御上

洛二付而直江山城守殿御指図二而隱居仕、祖父与五郎二跡式

相渡申候、即京都江御供仕、其後奥州仙道御陣之時分御

供仕、御眼前二而走廻相働申候、祖父次郎右衛門処江御感

被遊由、以上使被 仰下由申伝候、元和元年大坂御陣之時分、

右与五郎大炊之助二罷成、段母衣之内上鉄炮五十挺御

預、御供仕御奉公相勤、元和六年二死去仕候 △文次郎兵衛儀、

大炊之助家督無相違百六拾石被下置、寛永元年四十石

御加増被下置、戌之年之御上洛御供仕、無程御使番

役被 仰付、三百石被下置候、其後信夫惣御横目被 仰付、

万治三年ニ隠居仕候 △拙者儀万治三年ニ父次郎兵衛家

督百石被下置御奉公申上候、先祖委細は同姓次郎右衛門

所より可申上候、以上

国分専右衛門

一、 祖国分左馬之助、於越後家督仕、会津より米沢江御供仕、

景勝様御代御足輕大将被 仰付、 定勝様御代六人年

寄二被召加、寛永十一年二信夫十二万石奉行職被 仰付候、

其付而惣領新左衛門儀、侍組江被召加、親主税儀八次男二御

座候二付而、 定勝様御代御中之門江被召加、寛永十六年二

新知百石拝領仕、其以後 綱勝様御代御中之間御番頭

被 仰付、万治二年二御加増百石被下置、貳百石ニて御奉公仕候、

拙者儀寛文三年十月親跡式百石被 仰付候、以上

早川勘兵衛

一、曾祖父早川式部儀、越後之内三条二罷有、五十騎之

御奉公仕会津御供仕、其以後病死仕候、実子主膳跡式

被 仰付、米沢へ御供仕参候 △右主膳寛永六年二御足輕

組御預被成、御加増共二三百石被下置、御奉公相務候、同十

老年二病死仕、世倅孫三郎二跡式百石被下置候、其後主膳卜

改名仕候、同廿年二御加増百石拝領、本知共二貳百石被下置候、

然所二寛文八年二病死仕、実子無之付、石付十兵衛次男

拙者養子二仕、跡式五十石被下置、御奉公相務候、右之段

承伝申候、以上

戸村善兵衛

一、祖父戸村惣右衛門、 生善院様米沢へ御下之節御付被成、

寛永十七年新知五十石被下置、并玉庭之御足輕廿人

引廻申、万事之支配被 仰付候、其後 生善院様江戸江

被成御登被成二付、即御供仕定詰之御奉公仕、於江戸二

寛永廿年二御加増五十石拝領、本知共二百石二罷成御奉公

相勤、年寄申承応三年二隠居之儀申上候所二、百石之内五

十石実子善兵衛二家督被 仰付、残而五十石ハ惣右衛門

一代隠居免被下置候 △親善兵衛儀、 定勝様御代別而

御扶持被下置、御納戸之御奉公仕候、其後新知五十石被下

置、惣右衛門家督共二百石二被 仰付、五十騎並被召加御奉公

相勤、其已後病死仕二付、実子拙者二跡式五十石被下置、

只今迄御奉公仕候、以上

丸山助兵衛

一、景勝様越後ニ而被下置候知行分、尾崎十右衛門分、

榎井甚右衛門分、新屋右近分、谷弥四郎分、右四人分

被下置、普請用心等嚴重ニ被仰付候、三条ニ被差置御

足輕鉄炮五十挺御預、松原之内犬伏と申所へ被差置候、

犬伏ニて死去仕候、右之御判形未所持仕候、右助兵衛名

跡甥丸山又四郎 △景勝様右又四郎ニ被下置知行分、

北条之内佐藤分之内被下置、上田ニ被差置候、助兵衛実

子無御座付而、跡式以　上意又四郎二被　仰付、其後平左衛門と
官途仕、会津米沢迄御供仕、病死仕候、右御朱印未所

持仕候、右平左衛門聶丸山助兵衛、平左衛門実子若輩故、姉聶

助兵衛跡式被　仰付、其後御加増被下置、貳百石二被　仰付候、

右丸山平左衛門実子丸山七右衛門、右助兵衛隠居被　仰付、丸山

平左衛門実子七右衛門二六拾被下置候、　定勝様御代御加増

被下置、貳百石二被　仰付候　△七右衛門死去仕、跡式五十石実

子拙者二被仰付候、右之段先祖承伝申候、以上

長谷川善助

一、拙者五代已前長谷川与八郎儀、 謙信様御身近被

召仕、 關東御陣若輩ニ而御供仕、 罷歸若死仕候、 実子無御

座候、 右之弟長谷川善之丞被召仕、 其後天正元年ニ谷

川村八貫文之所并別谷分被下置候、 景信之証文御

座候、 又為御加増天正十一年ニ江内之村山分被下置候、 信吉

之判形所持仕候、 右善之丞実子長谷川与八郎、 從

景勝様、 大場御一戰之時御感状被下置候、 其後官途仕

善七郎ニ罷成候、 為御加増天正十八年栃尾之内直海又七分

被下置候、 泉沢河内判形所持仕候、 〆四通ニ御座候、 会津米

沢迄御供病死仕候、 右実子善助、 景勝様御守ニ被召仕候、

無程五十騎江被召加、定勝様御代御納戸頭被 仰付、其後御

台所頭被 仰付、御加増拝領仕貳百石ニ罷成候、 綱勝様

御代ニ隱居仕候、右実子庄助、貳百石無相違被下置、五十騎

之御奉公仕致病死、跡式五十石実子拙者ニ被 仰付候、以上

志賀善三郎

一、曾祖父志賀又兵衛、五十石被下置、越後上田ヨリ御奉公仕候、

又兵衛実子無御座付而、猪苗代組之内荒屋門兵衛世倅

善左衛門養子ニ仕名跡ニ仕候、又兵衛甥ニ御座候、右善左衛門

寛永十五年御加増拝領仕、貳百石ニ罷成、承応元年三

百石二被成、町奉行被 仰付、寛文四年福嶋郡代被 仰付、
御半地之刻、御台領御代官被 仰付、同八年二病死仕、実
子親利兵衛二百石被下置候、延宝四年利兵衛病死
仕、実子拙者二五拾石被下置、御奉公仕候、以上

半右衛門

栗林次兵衛

一、栗林次郎左衛門、越後上田二被差置、御甲代御家老役
儀仕、其上数度之御一乱従、謙信様被下置候、数通之
御感状未所持仕候、△次郎左衛門死去実子治部無相違
家督被仰付、御家老役御甲代仕候、其已後右之

治部受領仕候而、肥後ニ罷成候、即從 景勝様御書共ニ

未所持仕候 △肥前死去仕家督実子監物ニ被仰付候、

監物惣領次郎左衛門儀ハ若輩故、御近習之御奉公仕、各別ニ

御知行被下置、侍組被召加候、監物儀ハ五十騎宰配頭被

仰付候、然所ニ御勘氣ニ而無程病死仕候、監物次男善兵衛

幼少ニ御座候ニ付而、監物本知之内五十石被下置、五十騎並

之御奉公仕候、善兵衛男子無御座ニ付而、拙者聲名跡ニ

罷成候、拙者儀ハ五拾騎組之内村山庄右衛次男ニ御座候、

右善兵衛、承応元年病死仕、拙者ニ跡式被 仰付、御奉公

仕候、以上

片桐伊兵衛

一、祖父与右衛門儀、三十人頭被仰付、父与右衛門幼少ニ而跡式相続仕、拙者之儀も幼少ニて父跡式被 仰付候故、品々委承伝不申候、万治三年より御奉公申上候、以上

黒井六右衛門

一、祖父黒井四郎左衛門、越後三条ニ被差置、御国替之時分会津米沢迄御供仕、御奉公申上病死仕候 △拙者親将監ニ則跡式六拾石被下置、 景勝様御代大坂両御陣御供仕、 定勝様御代寛永元年御加増被下置

貳百石ニ罷成、其後寅ノ歳御上洛之時分、上下騎ニ而御供仕、
其後病死仕候、右之実子拙者則六拾石跡式被 仰付、

御当代迄御三代御奉公申上候、以上

山崎左門

一、祖父山崎又右衛門、越後上田ニ罷在、御国交会津ニ而御知行

百石被下置候、御当地江御供仕五十石被下置、御奉公申上、慶

長十九年、大坂両御陣罷立相勤申、元和五年、 景勝様

御上洛御供仕、元和七年病死仕、其子勘兵衛、 定勝

様御部屋住之時分、別而御歩行ニ被召仕候所ニ、父又右衛門

病死仕、跡式実子勘兵衛ニ被 仰付、寛永十三年江戸御

城之外曲輪御堀普請奉行被 仰付相勤申、同拾五年

病死仕、跡式拙者ニ被 仰付、当年迄四十年御奉公申上候、以上

西方七郎兵衛

一、祖父西方清左衛門越後御普代御奉公、五十騎ニ而相勤申候、

文禄元年三月朔日、高麗御陣之節御供相勤、其後

新発田御城ニ佐藤石見被差置候刻、為御横目右清左衛門

も被差置由ニテ、会津江御越之節御供仕、御当代迄段々相

勤申候、然所二年寄申隠居申立所ニ、実子主計家督被

仰付、清左衛門儀ハ御武具役被　仰付、四人御扶持被下置候、

景勝様御代、右之主計大坂両御陣御供仕、正保三年ニ病

死仕、実子七左衛門ニ跡式被　仰付、無程七左衛門病死仕ニ付而、実子

無之故、弟拙者跡式無相違被下置、慶安四年より御奉公申上候

橋爪彦右衛門

一、曾祖父橋爪仁兵衛、越後上田関と申所ニ被指置五十

騎之御奉公仕候、越後御一乱之時分、北条安芸上田へ働申

刻、仁兵衛妻子関東へ引取候得共、春日山ニ有詰御奉公仕ニ付而、

被遊　御感、山室と申所為御加増被下置、天正九年ニ御朱印

与左衛門

頂戴、其上從春日山関迄之伝馬宿送等、御朱印迄未所持仕候、

文禄三年御加増被下置候、泉沢河内判形所持仕候 △右新発田、

北条橋御陣之刻、御馬之脇ニ被差置候所ニ、敵慕申故、相働討

死仕候 △仁兵衛討死仕ニ付、実子隼人跡式被 仰付、新発田

御陣、佐渡御陣、関東御陣、十六歳ヨリ御供仕、八王子ニて本丸御

小旗相立、其後奥御陣、高麗御陣、大坂両御陣御奉公相勤

申候、依之為御褒美、御手明御鉄炮組御預御奉公仕候、

隼人実子仁兵衛、別而御扶持被下、 定勝様御部屋

住之御奉公六年相勤、隼人病死仕ニ付而、仁兵衛ニ跡式被

仰付、江戸石垣御普請奉行ニ両度罷登御奉公仕、年寄

申寛文四年隠居仕、実子拙者ニ家督被 仰付、御奉公
申上候、以上

福嶋八郎左衛門

一、拙者四代已前福嶋清兵衛、越後御普代、其子主水越後
御国交ニ付、会津御当地迄御供仕御奉公申上、其子左近
定勝様御部屋住より御奉公仕、其已後五十騎へ被召加、寛永
七年病死仕、実子無御座故、山本右近次男平兵衛名跡
相続仕候、寛文八年隠居仕、実子拙者跡式被
仰付候 △景勝様越後ニ而右清兵衛ニ被下置 御書福嶋

右兵衛未所持仕候、此者委細可申上候、已上

富井次郎兵衛

一、景勝様御代、祖父富井二郎兵衛猪苗代組二罷有、慶長

十九寅之歳、越後高田上総様御城御普請奉行

被 仰付相勤、大坂両御陣御供、御帰之上式百石被下置、

猪苗代組五十人頭被 仰付、定勝様御代五十騎組江

召加、其後信夫築川御城付之馬上二被 仰付、

綱勝様御代迄御奉行仕、正保四年築川二而病死

仕、実子無御座二付、江口主膳弟養子二仕、家督無

相違弍百石被下置、御奉公申上、万治二年病死仕、実子

拙者二跡式五拾石被下置、御奉公申上候

佐藤弥兵衛

一、先祖佐藤修理、永正七年八月廿日、從 定実様蒲

原之郡五十嵐保内大浦分知行被下置御書一

通未所持仕候 △年号月日同前二而從 為景様御添状

未所持仕候 △從 為景様修理子弥太郎所へ三月十五日二被

下置候御感状一通、未所持仕候、△為景様江御年頭

差上候其御返状未所持仕候 △為景様江火事二付而御機嫌

窺飛脚差上候御返狀、未所持仕候、△從 張忠様弥太郎

所江九月十三日被下置候御感狀一通、未所持仕候、右弥太郎

修理ニ罷成候 △修理子与八郎、越後三条之城主金摩利

御退治之刻走廻忠信申ニ付、弓削分并根岸伝助分

知行被下置候 景勝様御朱印一通、未所持仕候 △祖

父佐藤五右衛門、大坂両御陣相勤、其上在々御改之刻も

罷出、其外度々走廻御奉公申上候、年寄隠居申上、種

村彦右衛門三男聳名跡ニ仕家督被 仰付、親儀は当御

城二三之丸御普請奉行ニ中山市左衛門、大比良次兵衛、拙者

父弥兵衛三人ニ而相勤、其後病死仕、跡式拙者ニ被 仰付

拾五年御奉公仕候

山田名兵衛

一、拙者先祖山田隼人、越後之内君帰と申所知行被下置、

其後沢小屋と申かけ橋被差置、広瀬口と申所へ被差遣候、

曾祖父儀山田因嶽と申、祖父弥十郎与申候、景勝様へ

御近習之御奉公仕、定勝様御代新地百石被下置、御中

之間へ被召加、其後貳百石被下置五十騎へ被召遣三百石被下

五十騎之長手組被仰付、因嶽病死仕、拙者親貳百石被

下置、其後御中ノ間へ被召加番頭被仰付候、死去仕跡式

兄伴兵衛二十五石被下、無程病死仕、跡式廿五石拙者二

種村加右衛門子孫仁左衛門、享和年中

着用之六具致質入候二付、式拾五石之内

拾式石五斗御取上ケ相成候

被仰付候、拙者名山田十右衛門、弥五右衛門一名二御座候、以上

宮森勘右衛門

一、祖父七右衛門、越後ニて吉田喜兵衛分と其外御藏より

式貫文被下置候、御書未所持仕候、此方へ御国交五十石ニ

罷成御奉公相勤申候、定勝様御代ニ御鷹部屋ニ

被指置、其後御守衆三十人之頭ニ被仰付、御加増五十石

拝領、百石ニ而御奉公相勤、寛永十二年病死仕、親長兵衛

本知五十石被下置御奉公仕、延宝四年隱居仕、跡式廿

五石拙者ニ被仰付候、以上

登坂弥兵衛

一、登坂甚兵衛弟蔵之助と申者、越後上田より御供仕、会津二而病死仕、実子清七 景勝様御代御守番頭被 仰付、御上洛之御供仕、於京都病死仕、御下向之其後、清七実子無御座二付、猪苗代之内藤崎加右衛門子、拙者名兵衛甥二御座候故、跡式五拾石被 仰付、五十騎江被召加三十八年御奉公仕候、以上

種村加右衛門

一、祖父又左衛門、越後二而御馬廻之御奉公相勤候、 景勝様、真板平城代為御退治、杉原常陸殿被遣候刻、祖父又左衛門

御横目二被差添候節、走廻御忠信申上候二付、上田琵琶貝之

城代豊野弥五郎分、為堪忍分被下置御朱印、来所持仕候、

其後越中之境勝山之御城御普請奉行二、五十騎衆之内

丸山勘之丞、親新九郎、拙者祖父又左衛門被 仰付候故、昼

夜働申候、已後二死去仕候 △拙者親彦右衛門、幼少二而陣代

相立候得共、不調法故無足二罷成、会津御国替之節、越後二而

之身立二被召加可被下段御訴詔申上候刻、御訴詔不叶御手

明並二罷成候 △大坂両御陣之刻、御手明御守御供武具

拝借金仕供奉仕候所二、拙者親御借物不仕、自分之兵具持

両御陣相勤申二付、平林蔵人殿判形二て御知行五十石拝

領仕候、右之書付所持仕候　△定勝様被遊御入国、御手

明肝煎役被　仰付候而、　綱勝様御代迄相勤申候

綱勝様御代、彦右衛門年寄申ニ付五十騎組ニ被召加、正

保四年ニ隠居、家督拙者ニ被　仰付、三十年御奉公申上候、已上

桐生左衛門

一、曾祖父左衛門、越後上田大谷地と申所御知行被下置、御奉

公申上候　△景勝様御代御加増拝領、天正十六年十

一月十九日、以御書出北条之内小幡市之丞分被下置、泉沢

奉ニて御座候　△文禄三年二月廿一日御書出、頸城上郷

之内大貫村、石沢村□田広斎分四拾八石五斗地被下置、

泉沢奉ニ而未両通奉書印判所持仕候、曾祖父左右衛門

高麗御陣御供仕、其後伏見御在番之御供申、伏見ニて

病死仕候、実子孫左衛門跡式被 仰付、右之御知行拝領仕、

会津米沢へ御供仕候、大坂両御陣相勤、年寄隠居仕、親

惣左衛門、右孫左衛門存生之内病死仕ニ付、拙者祖父跡式

寛永十九年ニ被 仰付、御奉公申上候、已上

山田弥次兵衛

一、山田盛右衛門、拙者之曾祖父ニ御座候、越後上田より御

知行被下置、御代々五十騎ニて御奉公申上、会津米沢迄

御供仕候、祖父惣兵衛大坂両御陣ニ御供仕、罷歸御膳部

御番頭被 仰付候、親作左衛門、右之身立五十騎へ御返被下

置、隱居仕、家督拙者ニ被仰付候、以上

登坂金兵衛

一、祖父登坂与左衛門、越後上田之内塩沢と申所ニ罷有、御守

之御奉公仕、高麗、大坂御陣御供相勤、元和六年ニ病

死仕、拙者親又右衛門幼少ヨリ仙洞院様へ御小姓御奉公仕候、

祖父与左衛門病死仕候後、本知五十石被下置、御手明組被

仰付、然所ニ松木石見、広居出雲、父又右衛門御奉公之品委御存ニ付而、御取成被遊五十騎へ被召加候、寛文十三年ニ隱居仕、家督拙者ニ被仰付、御奉公申上候、以上

一

鈴木清左衛門

一、曾父鈴木十左衛門親六之助、関東皿窪ニて討死仕候、弟

十左衛門、越後御館ニ而討死仕、天正九年十一月北条之内

六ヶ村御知行被下置、御朱印未所持仕候、祖父清左衛門

御守之番頭被仰付、其以後五十騎へ被召加、正保二年十一月

清左衛門病死仕候、世倅名左衛門、身立不被仰出候内、右

名左衛門病死仕、拙者名跡ニ罷成、跡式被 仰付、御
手明ニ而御奉公仕、承応年中五十騎へ被召返、奉公申
上候、拙者之儀ハ戸田彦右衛門ニ男ニ御座候、以上

小幡半左衛門

一、祖父小幡市之丞、越中之境落水ニ被差置候由申伝候、
其後会津此方迄御供仕、御堂御番被 仰付、慶長拾
年ニ病死仕、実子市右衛門右之御奉公被 仰付、元和二年ニ
御守ニ被召加、新知貳拾五石拝領仕、其後御代参役被
仰付、十七年相勤、五拾騎へ被召加、万治元年隱居仕、跡式

無相違拙者二被仰付候、拙者佐藤孫左衛門末子ニテ聲名跡二
御座候、以上

大平清兵衛

一、景勝様へ拙者親御守之御奉公仕、病死仕候、跡式

拙者二被 仰付、御手明御奉公申上候、西国嶋原一乱之

時分、御状遣二、松平伊豆守様、鍋嶋信濃守様御父子様江

御状差上申、首尾好御返事取指上申、其後御守之御奉公

仕、年寄申二付五十騎へ被召加候、大平源五左衛門惣領二御座候、

先祖之儀大平源五左衛門二御座候、以上

山田平兵衛

一、祖父山田弥左衛門、越後御普代ニ御座候、嫡子同弥左衛門、次男平兵衛兩人ニ御座候、右弥左衛門儀は山田権左衛門先祖ニ御座候、平兵衛ハ二男ニ御座候付、於越後御手明之御奉公申上、新知五十石拝領、米沢迄御供仕、御堂御番被仰付、五十年御奉公仕、年寄隠居申ニ付、拙者ニ跡式被仰付、御堂御番仕候、其後御守へ被召加、年寄申ニ付五十騎へ被召加、御奉公申上候、以上

安部又兵衛

一、祖父安部右衛門、越後ニ而走廻申ニ付、御書御感状

数通御座候、其後魚津ニ而討死仕候、親善左衛門、高麗

大坂両御陣共ニ御供仕、御奉公申上候、拙者ニ男ニ御座候、御扶持被下置、五拾騎ニ御奉公、当年迄四拾年仕候、以上

桜井門之丞

一、先祖之儀、桜井三助、同孫惣右衛門一名ニ御座候、右兩人より可申上候、親助之丞、御扶持ニて五十騎御奉公申上候、

綱勝様御代国廻被仰付、無恙相勤、寛文四年ニ病死

仕、実子無御座ニ付、戸田彦右衛門三男養子ニ罷成、跡式

被仰付、当年迄十四年御奉公申上候、以上

小幡藤左衛門

一、祖父五郎右衛門、五人御扶持被下置、五十騎ニ而御奉公仕、大坂御陣御供仕病死仕候、五郎右衛門実子半助跡式被 仰付、右之御扶持被下置、御奉公仕病死仕候、拙者之儀与板組之内岡長兵衛弟ニ御座候、半助名跡ニ罷成、御奉公申上候、以上

村山甚左衛門

一、祖父左近末子源兵衛、兄源助、御不審之刻小国へ流人ニ被 仰付、其後綱勝様御代被召出、御扶持切米被下置、五十騎へ被召加候、年寄申源兵衛隠居仕、跡式実子拙者ニ

此石墨御呵二相成候力、今はなし

被仰付候、先祖之儀、村山新藏惣領ニ御座候、委細可申上候、以上

登坂次郎助

一、祖父九左衛門、越後上田ニ罷有、其後江戸御作事屋頭被

仰付、御知行百石被下置候、親五十騎へ御奉公仕、右九左衛門跡式

五十石被下置候、拙者八歳より御扶持被下置候、以上

馬下長右衛門

一、拙者祖母、馬下助左衛門姉ニ御座候、定勝様御代ニ

綱勝様へ御乳上申、江戸迄被召連御、八歳迄御奉公申上、

罷下五人御扶持被下置候、其御扶持実子金左衛門二被下置、五十

騎へ被召加候、右金右衛門、江戸御番迄相勤申候、本名八神保二御

座候、御乳之人二八式人御扶持拾石被下置候、病死之後御扶

持被召上候、金左衛門寛文十一年二病死仕、実子無御座二付、伯父跡
式拙者二被仰付、御奉公仕候、以上

石墨久兵衛

一、曾祖父石墨新左衛、越後上田本馬上二御座候、岩城と

申所二被差置、御奉公申上候、右新左衛門子外記、会津米沢

迄御守被 仰付、御奉公仕候、拙者親外記、幼少二御座候

故、姉聳二知行相渡、成人仕候而御堂御番被 仰付、

右同前ニ御奉公仕候者共五十騎へ被召加候得共、外記病人ニ而
他国御軍役不罷成候故、一代御堂御番仕、隠居之時分

右之趣申上候得は、慶安三年拙者五十騎へ被召加、御奉公
申上候、以上

武頭

ノ四拾六人

癸知新左衛門

一、慶長十三年頃、景勝様御代、祖父癸知新左衛門、

書付差上申留、発知新左衛門高百五十石、生越後上田

代々御譜代二御座候、祖父山城入道八房長様へ御奉公

申上候、親六郎右衛門八道叟様江御奉公申上、其已後

謙信様被召仕、関東沼田二被差置、其後御当代迄御奉公

申上、府内ニて病死仕候、拙者事、御一乱上野中務

被差添、沼田籠城之時分数度走廻申事、長尾伊賀、

小森沢肥前存被申候、仙道鍋倉など心操ハ、福島掃部

見被申候、右は祖父代指上申留事写指上申候 △寛正

之頃、從 上杉房定様越後魚沼之郡藪上羽川分、

七拾弍町三反五束刈之所、発知山城入道二被下置候、長享

二戊申三月廿六日、上州白井於双林寺ニ、房長様御切腹

之刻、御供腹仕候、跡式実子六郎右衛門相続仕、明応之頃

上杉憲房様より魚沼之内槻岡小三郎分御加増ニ被下置、

其後上田政景様江御奉公申上候、永禄四七月五日御

遠去ニ付 謙信様被召仕、関東沼田之城ニ被指置候、

被官瀬沼と申者、境判所ニ被差置候所ニ、御法度之留物

隠他郡へ通候由、讒佞者罷出訴人申ニ付、其御不審ニより

知行改易ニ被成置、越後へ罷帰候、 謙信様御遠去已後、

景勝様御館乱之時分、御勘当御赦免、六右衛門、同子新左衛門、

源六被召出、御奉公申上候、上野中務被差添、新左衛門、源六

沼田江被遣候、其後御国御本意之上、天正九父子三人二三通之

御朱印ニて御知行被下置候、其後六郎右衛門、吞嶺之城ニ被

被差置候 △新潟御陣、新左衛門、源六被召連、沼葉大渡

□御合戦之刻、兄弟共ニ兼而強弓孤申ニ依而、火矢被 仰付

日交ニ討申候、舟勢櫓河中江乗出、新発田之陣へ討懸

陣中度々焼立申候、敵方より十匁鉄砲ニ而勢櫓操入打申ニ

付而、発知源六胸板ニ当深手肩申段言上申承は、御前

近其身御□寄御薬被下候、御前引除終ニ死去仕候由

言上申候、僧求教養可仕旨 上意ニ御座候、御馬一疋被

下置候、三条之道場時宗寺招野辺之當相済申候、六右衛門

儀年寄申、吞嶺城役御侘仕、御暇之上隱居免ニ糸井川ニ而

御知行式百石被下置候、城之跡役樋口伊予ニ被 仰付候、

△祖父新左衛門、天正二十年高麗御陣御供仕候、文祿三

刈羽之内宮川ニ而御加増被下置候、慶長二、頸城之内

西浜ニ而御知行式百宛被下置候、慶長二頸城之内

落水之城へ被遣候、同三年越後より御国替、御鑓組五拾

男女共二百余人引連、会津ニ而段母衣御炮炮佐藤与五衛門

相給ニ而御預、御上洛御先乗被 仰付、会津より御国交之

砌段母衣破申、御鑓組男女共二百余人引連、御当地へ罷

越候、慶長十九年大坂両御陣右之組引廻、元和二年

三十人頭被成始刻被 仰付、御加増貳百石ニ罷成、同三年

御上洛御供仕候、元和七年之秋宰配頭被 仰付候、

定勝様御代、寛永元年十二月病死仕刻、跡役実子

新左衛門、栗林監物相給ニ被 仰付候、寛永四年、御加増

三百石ニ罷成候、同五年暮傍輩衆御上洛、江戸御番、

二方遠近之吟味ニ付而出入ニ罷成、理非之輕重ニ無御構、

双方共ニ改易ニ被 仰付候、寛七年、御改易御赦免御知

行百被下置候、寛永十一年、御加増三百石ニ御鑓組被 仰付候、

綱勝様御代迄江戸壹年御番再々相勤、慶安元年之

秋罷下病死仕、其跡役組共ニ無相違拙者ニ被 仰付候、

寛文十二年三月十六日三十人頭 被仰付候、

上杉房定様御一家

御書御感状合廿四通、未所持仕候、以上
長尾政景様御一家

福崎七郎兵衛

一、拙者先祖書立之儀、福崎市郎兵衛申上候、 定勝様

御代、親彦左衛門病死仕、跡式次男同姓 一郎兵衛 二五十石

被下置候、拙者若輩より御近習 二被召仕候 二付而、百石被下置

御奉公申上候、 定勝様御遠去已後、拙者五十騎

へ被召加、其後 綱勝様御代、御中ノ間へ被召加、御奉公申

上、万治二年ニ御加増貳百石ニ被 仰付候、寛文貳年御
加増三百石ニ而御使番被 仰付候、 御当代寛文十二年
御弓頭被 仰付候、当年迄四拾貳年御奉公仕候、以上

笠原新五兵衛

一、越後三条より罷出候、会津米沢迄御奉公申上候、祖父

笠原大膳、慶長六年ニ本知七拾五石、平林藏人書付

之内、下永井ニ而五十石、信夫ニ而廿五石被下置候所ニ、信夫荒

地分廿五石差上、下長井五十石ニ而御奉公申上、隠居

仕、右之跡式本知五十石、大膳実子利右衛門被 仰付候、

大坂両御陣迄相勤申候、 定勝様御代御加増拝領、

貳百石之身立ニテ相勤申候、 戌之年御上洛ニ罷立候、

寛永十八年江戸ニ而病死仕候、 男子持不申ニ付而、 飯田織部

孫拙者聳名跡ニ仕候、 跡式本知五拾石、 右利右衛門

聳拙者ニ被 仰付候、 綱勝様御代御加増拝、 領貳百石ニ而、

江戸壹年御番相勤申候、 御当代迄御奉公仕、 長年御鎧

組被 仰付、 御加増拝領仕、 貳百石ニテ御奉公申上候、 以上

宮八郎兵衛

一、 祖父宮善助、 越後御譜代上田ニ罷有候、 天正八年ニ

太郎田村御知行被下置、景勝様御判形未所持仕候

△天正十二年ニ妻有下条之内、石関分御加増被下置、御

書出所持仕候 △文禄三年唐人又太郎分之内八十七石

九斗之地御加増拝領御書出所持仕候 △右善助御奉公

之品々、越中境山御取被成候時、陸地より物見不罷成ニ付而、

舟ニ而罷越、持口之様体委細可申上候付、則罷帰申上候

得は、右之地落城仕候 △新潟へ始而御出馬被成候刻、勢櫓

一構御立被成候処ニ、敵夜懸仕候刻、拙者ニ被仰付、舟ニ而

罷越、勢櫓舟之綱切放、寄井へ引寄申ニ付而、敵退申候

△奥州御陣御帰之砌、一揆之起申時分、庄内之内須加野之

寄井ニテ御責被成候所ニ、拙者先陣ニ堀越、鉄炮ニ而腕被

討拔、御奉公仕候　△高麗御陣之時分、拙者並ニ御奉公仕候

者共、替御国元へ御返被成候所ニ、拙者定詰仕、二年昼夜共ニ

御奉公仕、右之御奉公相勤候旨善助覺書仕指置申候、右

善助実子善兵衛、御奉公相勤候儀ニ而　景勝様御代、

新御扶持拝領仕、猪苗代並之御奉公仕候、大坂両御陣相勤、

其已後親善助病死仕、跡式被　仰付候、拙者本名林辺

主馬二男ニ御座候、右善兵衛名跡ニ罷成候、正保二年ニ跡式

被仰付、寛文二年ニ御加増拝領二百石ニ被　仰付候、当年迄

三十三年後奉公仕候、以上

福崎市郎兵衛

一、祖父源之丞、越後三条二被指置候、跡式親彦左衛門二被

仰付御奉公仕候、天正廿年高麗御陣御供仕、慶長

十九年越後高田御城御普請奉行被 仰付候、其年

御加増被下置式百石二被 仰付候、同年大坂両御陣、段母衣

三拾人御預引廻申候、御帰陣之後、並御鎧組五十人被

仰付、其後御上洛之御供仕、 定勝様御代、寛永四年

御加増拝領仕三百石二被 仰付、三十人頭被 仰付、江戸壹年

詰之御番手初相勤、罷下病死仕候 △親彦左衛門跡式、寛

永十六年実子拙者二男二御座候得共、跡式 被仰付、御知行

五十石拝領仕候、兄七郎兵衛若輩より、定勝様御近習ニ被

召仕候故、百石被下置候、拙者儀、定勝様御代より御奉公申上候、

綱勝様御代、寛文二年二月御加増拝領仕貳百石ニ被

仰付、始定詰相勤、御当代迄卅九年御奉公申上候、以上、

下平作兵衛

一、曾祖父右近、先祖は関東上野沼田之内下平と申所ニ

罷有ニ付而、在名ニ御座候、其後越後へ罷越、妻里と申所ニ罷

有由承伝候 △顕景様御感状三通、御代々之御

感状共ニ、七通未所持仕候 △於越後ニ政景様御代

曾祖父右近、廿挺之御鉄砲大将被 仰付、祖父右近親ニ

幼少ニテ離申候、伯父同姓彦兵衛と申者、廿歳迄之陣代ニ

立申候而、其後渡不申、各ニ 景勝様御代ニ御守之御奉公

仕、高麗御陣御供仕、其後先祖御取立五十騎へ被召加、

大坂両御陣之御供仕、其後十人頭仕、 定勝様御代

御加増式百石拝領仕、戌之年御上洛ニ御供仕、其已後

三手より十人頭仕候者十五騎之内、福嶋江被差遣候、右之内以

御吟味信夫沢俣之御足輕五十人、右近ニ被 仰付、其上

江戸御番迄御用捨被成被差置候、右近年寄申、正保三年ニ

隠居仕候、家督式百石無相違拙者ニ被 仰付、当年迄三

十年御奉公仕候、以上

丸山助右衛門

一、曾祖父茂兵衛、越後之内藪上卜申所ニ被差置、御奉公仕候、知行分ニ頸城之内野村被下置候、右茂兵衛病死仕ニ付而、

景勝様御代、実子太郎右衛門跡式無相違被下置、五十騎之

御奉公相勤申候 △太郎右衛門致病死、実子助右衛門ニ跡式

被 仰付式百石被下置、 定勝様御代御納戸頭被 仰付、

組共ニ御預御奉公仕候、右助右衛門在世之内、拙者別而五十石

被下置、御奉公仕候所ニ、助右衛門病死仕候ニ付而、拙者ニ跡式式百石

被下置、五十騎之御奉公仕候、以上

金子太郎兵衛

一、祖父次郎右衛門、代々御普代二御座候、越後上田二罷有、景勝様御錯乱之時分御奉公仕、小森沢刑部と同書二

拝領仕候御書、小森沢仙右衛門所持仕候、其後越後之内

琵琶懸之城被 仰付候由申伝候、天正廿年高麗御陣

御供仕、其以後会津御国交御供仕、年寄申隠居仕、実子ノ

庄右衛門幼少二御座候故、清水采女弟藤左衛門聲名跡二

仕、知行四百石無相違被 仰付、其後御足輕組御預被成候段

申伝候、米沢へ御国交高八十八石八斗八升被下置候、大

坂両御陣御供仕候、元和九年亥ノ年上洛騎馬ニテ

御供仕候、寛永二年御加増拝領式百石ニ被 仰付、年寄

隠居仕、跡式本知実子又次郎被仰付、一兩年御奉公

仕病死仕候 △次郎右衛門実子庄右衛門、各ニ 定勝様御

部屋住より御奉公申上、元和九年御上洛御供仕、其後御

納戸ニ被召加、新知五十石拝領仕、御奉公申上候所ニ、又次郎実

子無之付而、跡式本知御納戸役御免被成、庄右衛門ニ被 仰付候、

其後御加増拝領式百石ニ被 仰付候、寛永十八年ニ病死仕候、

拙者庄右衛跡式本知被 仰付御奉公仕候、 綱勝様

御代御作事屋頭被 仰付、三年相勤、寛文二年ニ御加増

拝領弐百石ニ被 仰付、当年迄三拾六年御奉公仕候、以上

福王寺太兵衛

一、曾祖父福王寺兵部、実子祖父大膳父子、越後上田方ニ走廻

御奉公相勤候、依之御先祖様御代々数通之御書御感状

右両人ニ被下置候、惣領福王寺名兵衛、同子仙助、段々相伝申候、△

親伝内、右大膳末子ニ御座候、御書御感状所持不仕候、

定勝様御部屋住御六之歳より、伝内江戸詰仕御奉公申上候、

御入国之時分新知五十石被下置、五十騎へ被召加、其已後御加増

拝領弐百石ニ被 仰付、 綱勝様御代長手御鎧組五十人御預、

御加増拝領三百被下置候、 万治三年ニ病死仕、跡式百石拙者ニ

小鷹庄左衛門孫甚五左衛門、正保五年十二月

十五日町奉行より御小姓頭 被仰付、百石御加増

三百石ニ而子孫永々侍組江被召入候、曾孫

志津摩代不調法有之、改易被 仰付候

其後大小姓組江被召出候

被 仰付候、当年迄十八年御奉公申上候、 綱勝様御代、江戸

御番三手共 二六十人被成立候時分、右之並 二被召加御供仕候、△御当

代様江戸御作事屋頭被 仰付、御役儀相勤、其後江戸百日番 二も

段々相勤申候、以上

売間藤右衛門

一、親藤右衛門儀、同姓刑部弟 二御座候、 定勝様御部屋住之

時分より御奉公仕、御入国之御供仕、新知百石被下置、其後御

加増拝領式百石 二罷成、始而御中ノ間御仕立被成候時分、御番頭

被 仰付、其後御勘定御横目被 仰付、寛永十九年病

死仕、跡式百石実子拙者 二被 仰付、五十騎へ被召加候、当年

迄廿五年御奉公仕候、以上

小鷹庄左衛門

一、曾祖父小鷹孫三郎、越後三条ニ被差置御奉公仕候、男子

無御座付而、西海枝右馬之助弟又左衛門聲名跡ニ仕、家督

被仰付、越後より御国替、会津御当地迄御供仕、御奉公申

上候、定勝様御代病氣故隠居仕、跡式実子治部左衛門ニ

被仰付候、右治部左衛門弟半兵衛儀ハ、定勝様御幼少より

被召仕、御歩行之御奉公仕、御家督已後兩度之御上洛

御供仕相勤申候、寛永五年ニ御中之間へ被召加、新知

百石被下置候、同十五年御加増弍百石拝領仕、御番頭

被 仰付候、 綱勝様御代、 寛文元年御加増三百石ニ而、

長手御鎗組五十人被 仰付、 十四年相勤、 延宝弐年

病死仕、 跡式五十石実子拙者ニ被 仰付、 御奉公仕候、 先

祖惣領小鷹治部左衛門委細可申上候、 以上

安部弥右衛門

一、 親安部久左衛門、 同姓仁助弟ニ御座候、 定勝様御部屋

住より御歩行之御奉公仕候、 寛永十七年御中ノ間江被召加、

寛永廿年新知百石被下置、 御当代迄御奉公仕候、 年寄

申ニ付而、 寛文九年ニ隠居仕候、 跡式五十石拙者ニ被 仰付、

五十騎へ被召加、御奉公申上候、先祖惣領阿部三太郎可申上候、以上

源兵衛

穴沢源左衛門

一、上杉房長様御一家御書八通
一、長尾景明様御一家御書七通

合拾五通所持仕候

穴沢定鎮、越後会津境広瀬之内、穴沢之城ニ被差置候、

其子小次郎、其子次郎右衛門、其子源左衛門、其子新兵衛、其

子善右衛門迄、六代右之城ニ罷有、則此所御知行ニ被下置御奉公

相勤候、御国交、会津米沢迄御供仕、米沢ニて御知行

五十石被仰付、慶長拾五年ニ隠居、実子勘七郎跡式

被 仰付、御奉公仕候、寛永三年ニ病死仕、実子無御座

付而、戸田庄左衛門二男源兵衛後家人ニ申立、跡式被 仰付御

奉公仕候、 定勝様御代、寛永十一年御加増百石被

仰付、寛文十一年病死仕、跡式五十石拙者ニ被 仰付、当年

迄七年御奉公申上候、以上

今泉五郎左衛門

一、先祖之儀、御馬廻組之内惣領今泉与五兵衛書付差上

可申候 △祖父今泉左京、於越後吉田之今泉と申所ニ罷

有候、会津江御供仕十人御扶持被下置、御奉公仕候、大坂

両御陣御供仕、御帰之已後、元和二年新知式百石、平林蔵人

印判所持仕候、其上猪苗代組五十人宛、楠川織部、富井

次郎兵衛、今泉左京三人二御預候、定勝様御代、猪苗

代被召上、百五拾人鉄上野二御預、其砌左京八五十騎（^{炮字落か}被召加、

寛永三年寅ノ歳御上洛御供仕候、同十二年病死仕、

実子治部跡式百石被 仰付候、同廿年会津御勢遣

之刻騎馬ニて罷立、正保元年二御加増拝領式百石二罷

成、年寄申延宝二年二隠居仕、拙者家督五十石二

被 仰付、当年迄四年御奉公仕候、以上

堀部理左衛門

一、祖父五郎右衛門、知行廿五石被下置、景勝様御代

御納戸ニ被召加候、年寄申隠居仕、実子奎之助ニ跡式

被 仰付、御奉公仕候、 定勝様御代御加増被下置、五

拾石之身立ニて御奉公仕候、 綱勝様御代、御納戸之定

詰役被 仰付、明暦四年御加増被下置、百石ニ之身立ニ而

御奉公申上候、延宝元年年寄申隠居仕、跡目五十石拙

者ニ被 仰付、五十騎へ被召加、当年迄五年御奉公仕候、以上

桐生次郎兵衛

一、曾祖父奎右衛門、越後上田之内大谷地と申所御知行

被下置、即在所ニ仕候、其子孫左衛門、各ニ 定勝様御部屋

住より御奉公仕、寛永十七年二御中之間へ被召加、同廿年

新知百石拝領、其後 綱勝様御代二御番頭被 仰付、御

奉公仕候、年寄申二付而寛文十二年隱居仕、家督実

子拙者無相違被下置、五十騎へ被召加、当年迄六年御奉

公仕候、先祖惣領桐生杢右衛門可申上候、以上

宮嶋甚右衛門

一、宮嶋若狭、越後上田御譜代二御座候、永禄七年関東

佐野御陳二頭討取、御忠信仕候付而 謙信様御感状

未所持仕候、大閣様奥御陳之時、 景勝様出羽仙

道御出馬被遊二付而、越後春日山 御城留守居、黒金

上野、広井出雲、宮嶋若狭三人二被 仰付差置候、

仙道ヨリ御加勢之儀被仰遣候二付而、右三人遂相談、広井出雲、

宮嶋若狭兩人為御加勢仙道罷立候、其後御上洛之

時御城留守居相勤申候、若狭儀、金之前後近馬上

二騎鎧卅三挺御軍役仕候、若狭儀跡式、実子与八郎

相続仕候、宮嶋与八郎御国替御供仕、会津ニて高

四百石被下置候、病氣故隱居仕、男子無御座二付而、塚田

内膳子民部聲名跡二跡式被 仰付候、民部、会津ヨリ

御国交之時、仙洞院様道中為御守護之御供被

仰付罷越候、米沢ニて本知三ヶ一二被成置、下永井ノ内

添川村ニて八拾八石八斗八升、右之外信夫ニて四拾

四石四斗四升、合百三拾三石三斗三升被下置候、信夫ニ而

相添候分荒地ニ付而御訴詔仕差上申、八拾八石八斗

八升御軍役仕候、大坂両御陣相勤申候、其己後、狩野

新助、宇津江小三郎、宮嶋民部三人ニ御右筆被仰付候、

定勝様、元和九年御上洛御供仕、寛永元年御加増

貳百石ニ罷成候 同九年御右筆御免、御加増被下置、三

百石ニて御鑓組被仰付候、其後南雲茂左衛門跡役

三十人頭被 仰付、綱勝様御代迄御奉公仕候、年寄申越、
万治二年ニ隱居仕、跡式百石実子甚右衛門ニ被 仰付候、
十人頭仕御当代迄御奉公仕、寛文五年病死仕、跡式

廿五石、実子拙者ニ被下置候、当年迄十三年御奉公仕候、以上

三本甚左衛門

一、越後之内上田栳沢ニ罷有、五十騎之御奉公仕候、為堪

忍分上田之内馬見塚分、千喜良切府被下之、天正

九年十一月、景勝様御朱印未所持仕候、三本又次郎

後は三左衛門と改名仕候、天正十一年十月為御加増、西方主計

分疊指切府下、大友切府下、合四貫八百文之所被下置、

泉沢河内判形未所持仕候　△文祿三年二月廿一日、為

御加増北条之内山室村所々共ニ登坂新兵衛分被下置候、

泉沢河内判形未所持仕候　△若松より御移之節、五十

騎之十人頭被　仰付、御奉公相勤申候、定勝様御代

病死仕候付而、跡式被仰付候、御奉公相勤申候、右之同

与三左衛門実子同与惣左衛門、病死仕ニ付而、実子右馬之助跡

式被　仰付候、無程病死仕候、右之右馬之助、実子無之付而、

前々与三左衛門孫古海又左衛門三男拙者ニ、定勝様御

時跡式被　仰付、御奉公相勤申候、以上

戸田彦右衛門

一、祖父戸田彦左衛門、越後上田御譜代ニ御座候、於越後、

壳間甚八郎分、為御知行被下置、泉沢河内判形

来所持仕候、越後会津米沢迄御手明組頭被 仰付、

上村内膳と相役仕候、御当郡ニ而高五十石被下置、

景勝様御代、慶長八年ニ五拾騎へ被召加、御奉公仕候、

元和七年ニ隱居仕、実子彦左衛門ニ跡式被 仰付、

定勝様御代迄御奉公相勤候、寛永十五年ニ病死

仕候、跡式 被仰付、拙者御三代御奉公仕候、以上

橋爪三左衛門

一、橋爪久兵衛、越後上田二罷、有代々御譜代二御座候、天

正廿年三月高麗御陣御供仕、御舟上乘被 仰付、

其上小簾紋杉葉二日ノ丸被下置候、其後会津御当地

迄御供仕相勤申候、年寄申付而隱居仕、実子加右衛門

跡式五十石被下置、慶長十九年大坂御陣御供仕候、

定勝様御代御加増、本知共二貳百石被下置候、然所二病

死仕、実子幼少故加右衛門弟治部陣代仕、跡目五十石

被 仰付候、治部も無程病死仕二付而、右加右衛門実子

弥次郎成人仕、跡式無相違被 仰付候、弥次郎

病人二て、弥次郎妹西方大炊之助次男弥左衛門縁

約仕、名字相続仕候、弥左衛門儀、綱勝様御代御加増

拝領、本知共弐貳百石弐罷成、其後町奉行役被 仰付

相勤死去仕候、跡式廿石実子某弐被 仰付候、以上

中村名兵衛

一、祖父甚助と申者、景勝様御守弐被召仕、年寄

申御堂之御番頭被 仰付、景勝様度々御詞被下置

難有存含罷有所、景勝様元和九年三月廿日

御遠去之砌、同廿八日御葬礼場ニて御供腹仕相

果申候、為御忠孝、実子名左衛門、定勝様御部屋住

御歩行被召仕、各二御奉公申上候所ニ、新知百石被下置、五十騎へ被召仕御奉公仕候、寛永廿年ニ病死仕候、男子持不申ニ付而、拙者儀長尾右馬三男聲名跡ニ申立、若輩故五十石ニ被仰付、当年迄廿五年御奉公仕候、以上

豊野藤左衛門

一、拙者四代已前、藤左衛門越後上田ニ御奉公仕候、景勝様御代、御館陣之時分、一騎ニ挺ニて荒川と申所江被遣候刻、御感状一通、天正九年十一月藪上と申所御加増之御朱印一通、同十年六月信州へ急之

御使被 仰付刻、御盃之上被下置候御朱印、御加増之

御書出一通、天正十四年二月十日御加増之御朱印

一通、右四通未所持仕候、其後新発田御陣之内、五十公

之町為御破候刻討死仕、男子持不申二付、弟助次郎と

申者、各二御守二被召仕候、藤左衛門跡式無相遺被下置、

如毎々一騎二挺二而御守之身立二被召仕候、天正廿年

高麗御陣之時、能立廻候二付而文禄三年御加増被

下置、泉沢河内判形所持仕候、其節助右衛門と改名

申候、從越後御国交、会津米沢へ御供仕、当地御移之

時分六拾石被下置候、助右衛門年寄申、慶長十九年五

十騎へ被召返、大坂両御陣相務、其子藤左衛門、各二 定勝様

御部屋住之時分、御歩行ニ被召仕候、右助右衛門病氣ニ

付隠居仕、跡式藤左衛門ニ被 仰付、明暦二年ニ病死

仕候、跡式六十石無相違拙者ニ被 仰付、廿二年御奉公仕候、以上

原弥五右衛門

一、曾祖父原丹波、関東上野之内平井と申所ニ罷有、御

奉公仕候、其後越後へ罷越、藪上と申所ニ罷有御奉公仕候、

越後より会津へ御供仕、病死仕候、実子原弥五右衛門、米

沢ニ而五十石被下置、 定勝様御代御加増拝領式

此馬下何れ年御呵罷成候哉、今はなし

百石ニ罷成、寛永三年御上洛御供仕、已後会津御勢

遣ニ罷立候、綱勝様御代ニ御留守居番頭五十人御預、

御加増拝領三百石ニ被 仰付候、正保三年病死仕、跡式実

子与三兵衛、貳百石ニ被 仰付、御奉公仕候、万治三年病死

仕ニ付、跡式五十石拙者ニ被 仰付、当年迄十八年御奉公

仕候、以上

馬下助左衛門

一、親助左衛門、村田大隅甥ニ御座候、謙信様御代、越

中之柏木と申所へ被差置候、其後 景勝様御代、北国御

陣之時分、柏木之地より大隅栃尾之城へ被遣御預被成候、

親助左衛門も被差添、即下越後馬下と申所御知行被下

置候、其後助左衛門春日山へ被為呼、御鷹部屋御預被成、

越後より御国代、会津米沢迄御供、御知行廿五石被下

置、御鷹部屋役ニ而病死仕候、跡式実子彦八郎ニ被

仰付、十三歳より 景勝様御近習ニ被召仕候、元和七年

御加増被下置、五十石ニ罷成候、 景勝様御遠去以後、

定勝様御代五十騎へ被召加候、改名助左衛門ニ罷成候、寛

永三年病死仕候、実子持不申付而、彦六と申時分、氏江

清兵衛養子ニ罷成、直江後室より御介分ニ、幼少之間式人

御扶持被下、其後御歩行並ニ後室へ奉公仕罷有候所ニ、

兄助左衛門跡式五十石、拙者ニ被仰付、五十二年御奉公仕候、以上

小池四郎右衛門

一、於越後ニ景勝様より御朱印、先祖文六所へ被下置、

御朱印未所持仕候、并泉沢河内判形所持仕候、△

上田より手廻被指添三条へ被遣候、其後天正廿年高麗

御陣御供仕候、実子四郎右衛門と申、米沢迄罷越、御知行

五十石被下置、大坂両御陣御供仕、其後年寄申正保

三年ニ病死、跡式実子拙者ニ被仰付、卅二年御奉公

仕候、以上

大野権兵衛

一、先祖五代大野十左衛門、越後安田之城（林辺美濃、大野

十左衛門兩人、為御横目被差置候由承伝候、実子十左衛門

跡式二罷成、会津米沢迄罷越、御鉄砲衆十人御預被成候、

其跡式杳右衛門相続仕候、定勝様御代御加増拝領式

百石二罷成、年寄病死仕候、実子無御座付、御馬廻之内小越

与六兵衛弟又次郎養子二仕、跡式五十石被仰付、杳右衛門二

罷成御奉公申上候、無程病死仕二付而、樋口伝兵衛子舅、

権兵衛後家入二申、上跡式被仰付候、寛文二年病死

仕、跡式拙者二被仰付候、当年迄十五年御奉公仕候、以上

村山弥五左衛門

一、祖父与右衛門、高五十石、景勝様御代御納戸ニ被召仕、其後、

定勝様御代、御加増拝領百石ニ罷成、江戸御納戸頭被 仰付、

綱勝様御代迄相勤申候、実子無御座ニ付而、甥ニ御座候

弥七左衛門養子ニ仕差置、幼少之時 徳松様御近習ニ被

召仕、御遠去之後 大御姫様へ御奉公申上、慶安五年ニ与右衛門

隠居仕、跡式弥七左衛門 二百石被 仰付、五十騎へ被召加御奉公

仕、寛文十二年病死仕、跡式廿五石拙者ニ被下置、

当年迄六年御奉公申上候、以上

古藤伝之丞

一、古藤清雲、関東上野之内藤原と申所ニ罷有候、其後

越後江罷越、藪上と申所ニ罷有候、房長様ヨリ御書御

感狀四通所持仕候、実子新右衛門 景勝様御代、於御鷹

野御勘気被 仰付、御国交之時分、会津猪苗代と

申所罷越居申候、米沢へ御移之節、御跡慕罷越候

一、祖父長右衛門、直江山城守ニ付、大坂両御陣ニ罷立候、其後

定勝様御代、新知百石被下置御中間被召加、寛永廿年

会津御勢遣へ騎馬ニ而罷立候、正保元年ニ御加増被下置、

貳百石ニ罷成、綱勝様御代寛文二年病死仕、跡式百

石実子弥兵衛ニ被 仰付、五十騎へ被召加病死仕、跡式廿

五石、実子新右衛門二被 仰付候、無程兄新右衛門病死仕、実子
無御座ニ付而、拙者 綱勝様御代、各ニ御近習ニ被召仕、
新御扶持被下置、綱勝様御逝行已後五十騎へ被召加、御
奉公仕候処ニ、兄跡式廿五石拙者ニ被仰付候、以上

井上権右衛門

一、曾祖父三郎左衛門、越後三条ニ罷有御奉公仕候、実子三郎左衛門
越後御国替、会津米沢迄御供仕、実子藤右衛門、三郎左衛門存
生之内より 定勝様御代、各ニ之身立ニ被召仕候付而、祖父
三郎左衛門承応三年病死仕、同五月跡式被 仰付、五十石
拙者ニ被下置候、先祖ニ被下置御感状未所持仕候、以上

橋爪善右衛門

一、越後之内上田ニ罷有、五十騎之御奉公仕候、其後駒帰

と申所江被遣、天正九年ニ為堪忍分山室内知行ニ被下置候、

景勝様御朱印未所持仕候　△橋爪与三左衛門、右与三左衛門

跡式被　仰付、以後頸城之内六拾石六斗三升、文禄三年ニ

為御加増被下置、泉沢河内判形未所持仕候、右同人実子

同新左衛門、右新左衛門実子無之二付、為名跡跡式被下

之、定勝様御代迄御奉公仕候、右新左衛門弟同与右衛門、

定勝様御代ニ与右衛門跡式被　仰付、御当代迄御奉公

仕候、右同人実子同与右衛門　△与右衛門、寛文十二年ニ

隱居仕、跡式拙者ニ被仰付候、以上

和田吉左衛門

一、曾祖父甚左衛門、越後上田之内藪上と申所ニ御知行

被下置候、実子甚左衛門跡式被 仰付、会津米沢迄御

供仕候、 景勝様 定勝様御二代御守ニ被召仕、其上

山田伝内、広居庄左衛門、和田甚左衛門三人御番頭被 仰付、

其後甚左衛門病氣ニ罷成付而、桑原次郎右衛門御差替被成、

其以後右三人ニ五十石宛御加増被下置百石ニ被 仰付、山田

は御馬廻ニ被召加、広居、桑原同時ニ和田儀も本知五十石ニ而

五十騎へ被召加、寛永十七年隱居仕、家督拙者ニ

被 仰付、吉左衛門数年御奉公仕、延宝元年ニ隱居、
跡式拙者ニ被仰付候、以上

佐藤弥左衛門

一、曾祖父石見、越後広瀬と申所ニ罷有候、新発田之城ニ
被差置候、実子佐藤平左衛門、越後より御国交、会津米沢
迄御供仕御奉公仕候、其後 定勝様御代、五十騎之宰
配頭被 仰付候、同平左衛門舍弟ニ御座候同弥左衛門、
新知百石被下之御奉公相勤候、年寄申病死仕候、実
子清左衛門ニ跡式五十石被 仰付、御奉公仕候、延宝元年ニ病
死仕候、跡式拙者ニ被 仰付、御奉公仕候、先祖被下置

御書御感狀、惣領佐藤平左衛門未所持仕候、以上、

神保利兵衛

一、先祖之儀、越後与板之内島越之由承申候、幼少ニて親ニ後申候故、委承不申候、拙者之儀御中ノ間小姓仕候時分、寛永十年十一月廿八日之夜、江戸御上屋敷小野七郎兵衛と申者、狼藉仕出候刻、首尾彼者組留申ニ付而、則為御褒美竹俣勘解由奉ニて、白銀三枚、其身之刀被下

置、其上新知三十石拝領仕、五十騎へ被召加、殊ニ御膳御横目迄被仰付、御奉公相勤申候、以上

小池七左衛門

一、祖父七左衛門、越後三条ニ罷有、拾貫文之所本知ニ被下置、度々

新発田御陣、其後天正廿年高麗御陣御供仕、御馬之脇ニ

立御奉公仕、越後御国交、会津米沢迄御供仕候、御知行

廿五石被下置候、年寄、実子七右衛門ニ跡式被 仰付、御守ニて

被召仕、慶長十九年大坂両御陣御供仕相勤候、其

後五十騎へ被召加、慶安元年ニ病死仕、跡式拙者ニ被

仰付候、以上

矢嶋伝右衛門

一、拙者先祖之儀、惣領矢嶋善右衛門委可申上候、親伝右衛門

御奉公之儀は 定勝様御部屋住より、各ニ御歩行ニ被召仕、
新御扶持被下置候、其後御守ニ被召加、新知廿五石被下置
御奉公仕候、其後御代参役被 仰付、承応二年ニ病死
仕、跡式拙者ニ被仰付、五十騎へ被召加御奉公仕候、以上

若井与右衛門

一、若井清右衛門、越後御譜代ニ御座候、男子持不申ニ付、五
十騎之内鈴木清左衛門ニ男聲名跡ニ仕養置候、清右衛門
儀御守之御奉公仕、寛永十三年ニ五十騎へ被召加、年
寄申正保三年隠居仕、家督拙者ニ被仰付、 綱勝様

御代御当代迄廿二年御奉公仕候、以上

豊野作左衛門

一、祖父惣右衛門、越後之内五郎丸と申所ニ罷有、御奉公

申上候、越後より御国替、会津迄御供仕、米沢御移之時分

五十石被下置候所ニ、半分信夫ニて被下置、荒地故御訴訟

仕差上申、高麗御陣、大坂御陣御供仕候、元和三年ニ

隠居仕、実子作左衛門ニ家督被 仰付、其後御代参役

被 仰付、寛文元年ニ病死仕、跡式廿五石被下置、五十

騎ニ被召加御奉公仕候、以上

武藤専右衛門

一、親又左衛門、越後上田ニ罷有、代々御譜代ニて御知行百

石被下置、御手明之御奉公仕候、景勝様越後より御国交

会津米沢迄御奉公仕候、五十石被下置相勤申候、病死

仕跡、式実子仁右衛門ニ被仰付候、綱勝様御代御手明

頭被仰付、拙者武藤仁右衛門弟ニ御座候、定勝様御代

各ニ御手明ニ被召仕、御扶持切米被下置、其後綱勝様

御代御守江被召加、御番頭被仰付、新知廿五石被下置、寛

文四年五十騎へ被召加御奉公仕候、以上

宮善兵衛

一、先祖之儀、親八郎兵衛申上候通ニ御奉公ニ御座候、拙者儀、

綱勝様御代御近習 二被召仕、江戸御番御供三度迄罷登候、

其後大小姓 二被召仕御奉公仕、其以後五十騎へ被召出、当年迄

廿二年御奉公仕候、以上

高橋与次郎

一、祖父民部末子庄左衛門、寛文二年二 綱勝様御代、新

御扶持切米被下置、五十騎 二被召仕御奉公仕候、延宝四年

隠居仕候、跡式拙者 二被 仰付候、先祖之儀、惣領甚右衛門

可申上候、以上

加藤吉左衛門

一、親吉左衛門、越後上田御譜代 仙洞院様へ御付被成、御奉

公仕候、御遠去之後 景勝様御代、親吉左衛門五十騎へ

被召加、五人扶持被下置御奉公仕候、 定勝様御代寛

永三年御上洛之砌、江戸御番ニ御合力銀ニて罷登、段々

御奉公相勤、寛永十四年ニ病死仕、跡式拙者ニ被 仰付候、

綱勝様御代、正保四年より寛文元年迄十六年之内、

江戸御番手四度相当申、無御合力ニ罷登相務申候、御当代

迄四十一年御奉公仕候、以上

吉兵衛

穴沢丈多郎

一、祖父半兵衛、 定勝様御部屋住之時分より、御扶持

切米被下之御奉公仕候、其以後五十騎江被召加御奉公

仕候、慶安二年病死仕、実子吉右衛門ニ跡式被

仰付、延宝元年ニ死去仕、跡式拙者ニ被仰付候、先祖

之儀、惣領穴沢源左衛門可申上候、以上

浅間久左衛門

一、先祖之儀、惣領半左衛門申上通ニ御座候、親勘左衛門

儀、仙洞院様 上条様御親子様へ御奉公仕、五人

御扶持被下置候、病氣ニ付御扶持差上申候、其後拙者

成人仕、正保四年ニ右之趣申立ニ段者、五十騎新

小姓御扶持被下置、御奉公仕候、其後寛文三年浅間

天保年中林藤左衛門以次男、五拾騎組

被召出候、林八林七郎左衛門力

甚兵衛宰配之時分、古藤弥兵衛跡御扶持式人扶持、

御切米五石被下置、御番並二被 仰付、御奉公申上候、已上

笠原武左衛門

一、祖父武左衛門、同氏利右衛門弟二御座候、於越後親三条二

罷有候、定勝様御部屋住之時分、各二御步行二被

召仕、式人御扶持御切米被下置候、其後御中之間へ被

召加、無程病死仕、男子無御座二付娘二青木左内末子

仁左衛門聲名跡二申上候得者、御扶持切米無相違被下之、

五十騎へ被召加候、親仁左衛門、寛文九年二病死仕、跡式拙者二

被 仰付、当年迄九年御奉公仕候、先祖惣領同姓

新五兵衛可申上候、以上

林七郎左衛門

一、祖父藤左衛門末子同次左衛門、身立新小姓ニて御奉公申

上候、其後片桐源太跡御扶持被下之、承応三年三人御

扶持ニ罷成、御広間御番並ニ御奉公仕候、寛文十二年

病死仕、男子無御座ニ付而、跡式与板組之内石原多兵衛

末子聲名跡ニ仕候、当年迄六年御奉公仕候、以上

桜井孫兵衛

一、曾祖父三郎左衛門、代々御譜代ニ御座候、越後上田之内下

倉と申所ニ御知行被下置、御奉公仕候、天正七年御

館御陣ニ討死仕候、其節祖父喜兵衛二歳ニ罷成ニ付而、右之

知行被召上、御介御扶持ニて会津米沢迄御供仕、御奉公

仕候、其後下長井之内勸進代村近辺之六ヶ村扱被

仰付、寛永廿年ニ大御姫様へ被召仕、御知行百石被下

置、江戸定詰十二年相務、年寄申ニ付御暇被下之、

無程病死仕候、親喜右衛門、各ニ御奉公御扶持切米被下置、

御大姫様へ被召仕手近被書添、御賄役被仰付定詰共

二年相勤、其後本郷へ御出被成時分、同役蒙ニて候、被召連

三年相勤罷下、親喜兵衛跡式百石被下置候処ニ、

其年之暮ニ病死仕候、其砌拙者三歳ニ罷成、幼少故

右之知行被召上、御介分二十人扶持被下置候、御半知之

時分五人御扶持ニ被成置、十七歳之時寛文十二年ニ

五十騎へ被召加、当年迄六年御奉公仕候、以上、

武頭

ノ
四拾六人

清水七左衛門

一、上田御代大々御譜代ニ御座候、拙者五代前清水内蔵之助、栃

生之城代被 仰付候、壳間甚五左衛門御添被差置候 △犬

伏之城代被 仰付被 仰付被指置候、年寄病死仕候、

実子采女ニ跡式城代共ニ被 仰付、内蔵之助ニ罷成候、△新

潟城代被 仰付被差置候 △越中之内天神山城代被

仰付被指置候刻、御加増本知共ニ二百七拾貫文被下置候 △佐

州吉井之城代被 仰付、佐州ニて嫡子采女ニ新知廿五

貫文被下置、父子共ニ被差置候 △新発田城代被 仰付候刻＜

大井田藤七郎様御子息喜七郎様乱氣被成候ニ付而、御

一類も無御座候故、上田御譜代之内御吟味ニて清水ニ被

仰付、喜七郎様ニ廿人御扶持被為進御預被成候 △越後より

会津へ御国交、即津川之城代被 仰付、翌年内蔵之助

年寄隠居、采女ニ跡式津川之城代共ニ被 仰付、知行

式千石被下置、采女知行二百石、嫡子与七郎ニ被下之、父

子共ニ被差置候、米沢へ御国替式人共ニ大井田様御供

仕参候、米沢ニて十人御扶持被為進候、采女ニ六百六拾六石

六斗六升之内、福島荒地式百石差上申候、残四百六拾六

石六斗被下置候、御足輕組御預被成候、嫡子与七郎ニ六拾六

石六斗六升被下置候、大坂両御陣父子共ニ相務申、其後ニ

石付宇右衛門跡断絶

采女病死仕候、嫡子与七郎ニ跡式被 仰付、御足輕組五

十人御預、知行三百石被下置、内蔵之助ニ罷成候、右与七郎

知行六拾六石六斗六升、拙者ニ被下置候、△親内蔵之助、亥ノ

年御上洛ニ三十御鎗被成立、内蔵之助ニ被 仰付、御先乗仕候、

組ノ出入ニ付而京都ニ而蒙御勘気、七年知行御取上被成候

御勘気之内ニ候得は、大井田様御預被成候儀達而御佗申上候得共

不相叶預置申候、親内蔵之助迄三代御預被成候、巳之歳ニ

御勘気御赦免、貳百石被下置候、大井田様寛永九年正月廿

六日ニ御遠去被成候、越後会津米沢迄三十六年預置申候、

△寛永十二年ニ御足輕組被 仰付、三百石被下置同十

三年二内蔵之助病死仕候、跡式実子拙者二被 仰付、百石

被下置候、拙者知行六拾六石六斗六升之所、弟三右衛門二

被下置候、 定勝様御代 二御加増共二貳百石、拙者二被下置候、

綱勝様御代、御鉄炮御足輕組五十人御預三百石二被

仰付、御当代二三拾人頭被 仰付候、右城々二被差置候

時分被下置候、御書御感状御朱印共二数通、未所

持仕候、以上

石付宇右衛門

一、祖父石付十兵衛、越後三条より御奉公申上候、親十兵衛

越後ニて家督仕、会津米沢迄御供仕、大坂両御陣

罷登、寛永四年 定勝様御代御使番被 仰付、同

十年御足輕大將ニ被 仰付候、同十五年二三拾人頭被

仰付、同十八年二六人年寄ニ被召加、正保元年ニ須田

相模築川へ被遣候時分、親十兵衛御横目ニ被 仰付、

築川へ罷越候、大学曲輪ニ罷有十五年相勤、万治元年ニ

隠居仕候、跡式実子拙者ニ三百石被下置候、延宝二年ニ

御留守番組被 仰付、当年迄廿年御奉公仕候、以上

高村名兵衛

一、拙者親高村跡式、兄次郎左衛門継申、拙者若輩ニ而

御小姓御奉公仕、御知行拝領仕、其後大小姓江被召加、

後五十騎並ニて御加増拝領仕、御中ノ間へ被召加、其後五十騎之御足輕炮砲組被 仰付候、越後以来御奉公申上候品、同姓弥左衛門可申上候、以上

桜井弥三右衛門

一、拙者先祖桜井三助嫡子勘左衛門越、中小出之御

陣御供仕走廻申ニ付而、別而御知行被 下置御奉公仕候、

会津より御当地へ御打入之砌、百十石長手村ニ而被下置候、

然所ニ、三助、勘左衛門父子共ニ一兩月之相違ニ病死仕候、

勘左衛門嫡子兵七、三助賀小山左衛門兩人跡式

相論ニ付、右兩人ニハ不被 仰付、程過候而 景勝様以

上意、三助跡式勘左衛門次男兵藏二被 仰付、貳百六

拾六石六斗被下置候、勘左衛門跡式ハ一類之内佐藤甚助

二男惣次郎二被 仰付、本知百十石被下置候、即拙者

親弥右衛門儀二御座候、名字曾祖父桜井三助、拙者母方曾

祖父佐藤平左衛門拙、者本名之祖父佐藤甚助、三人二

其知手堅相抱、日々敵討取之由御感之旨 景勝

様御直書未所持仕候、父弥右衛門、大坂両御陣罷立、其後

御加増拝領貳百石二被成、 定勝様御代、御使番廿人被成

立候始二被召加、三百石二罷成、無程六人年寄被 仰付、

五百石被下置、綱勝様御代、江戸西ノ御丸御普請

之時分、大奉行市川土佐、親弥右衛門、荏戸九郎兵衛

兩人二被仰付、壹年余相勤、其上從 公方樣為御

褒美白銀二十枚時服十拝領仕、万治三年二病死

仕候、弥右衛門実子拙者二跡式三百石被下置、大小姓二被

召加、其後中小姓二罷成、御半地之砌五十騎へ被召加、御

奉公仕候、以上

宮与三右衛門

一、曾祖父宮備後并祖父同盛右衛門、越後御譜代二而

御奉公仕候、越後二て東山三間屋敷と申所被下置、

証文所持仕候、祖父盛右衛門義、越後二而北条之内五

ヶ所之御知行拝領仕、御証文未所持仕候、祖父盛右衛門、

男子兩人御座候得共、惣領宮盛右衛門、同新五左衛門儀二ハ、各二

御奉公仕候ニ付而、福王寺大膳二男惣右衛門聲名跡ニ

被 仰付候、右惣右衛門御奉公之儀ハ、大坂兩御陣御供仕候、

其後戌之歳御上洛ニ御供仕候、惣右衛門男子無御座ニ

付而、拙者泉崎傳助惣領聲名跡ニ被 仰付、養父惣右衛門

年寄隱居仕候、跡式無相違弍百石被下置、当年迄

卅二年御奉公相勤申候、以上

大石藤右衛門

一、先祖代々越後御譜代ニ御座候、拙者より五代前

大石与三郎と申候、後ニ左京ニ改名申候、子四人御座候、

嫡子源三郎儀若死仕候、二男与三郎と申、後ニ藤右衛門ニ

罷成候、謙信様御代御使役仕候由承伝申候、此者

拙者先祖ニ御座候、三男惣助ト申候、謙信様ニ被召仕

御目付役仕由承伝申候、四男兵部と申候、謙信

様ニ被召仕、景勝様御代奉行役被仰付、播磨と申候、

米沢へ御国替之年会津ニ而病死仕候、右之左京跡式

二男藤右衛門ニ相違被下置、越後ニて病死仕候△藤右衛門

跡式。実子与三郎ニ無相違被下置候、会津ニて改名源助ニ

罷成候、無程病死仕候△源助跡式実子藤右衛門十歳ニ

西海枝久右衛門子孫西海枝正藏、天保年中

平米御藏預一件二付改易、其後組附

御扶持方被召出候

罷成候、幼少故小身ニ被 仰付、伯父大石播磨、并母方

之伯父鉄上野ニ御預被成候、播磨其翌年病死仕、上野

養育ニ而罷有候、十二歳ニ而米沢へ御供仕、六拾石被下

置候、御加増始之式百石被下置、左京ニ改名仕候、後ニ御

使役被 仰付御加増拝領、藤右衛門ニ罷成候、已後鉄炮

御足輕組御預、正保三年ニ病死仕候 △親藤右衛門

跡式、実子拙者十三歳之内式百石被下置、当年迄

卅三年御奉公仕候、以上

浅間新五左衛門

一、景勝様御代、於越後ニ浅間石見執権被 仰付、

浅間治部左衛門儀、石見甥二御座候、右之治部左衛門親ハ石見

弟二御座候、名不存候、治部左衛門、越後上田之内塩沢と

申所二罷有候、会津米沢迄御供仕候、治部左衛門実子

無之二付、深沢平右衛門二男聲名跡二仕候、甚兵衛大坂

両御陣御供仕候、右甚兵衛御使番被 仰付、其已後

五十騎之宰配頭被 仰付候、拙者上村彦右衛門二男二

甚兵衛孫二御座候、名跡二仕候、拙者若年故此外委不

存候、以上

西海枝久右衛門

一、親西海枝造酒、五十騎之内鈴木彦右衛門弟御座候

所二、西海枝久兵衛若輩故番代仕候、右之久兵衛成

人仕二付而知行御軍役相渡申候、其砌造酒二新知

五十石被下置候、其節西海枝名字二罷成候、其後御

加増被下置候、貳百石二罷成、其後三百石二被成、御使番被 仰付、

其後小道具組御預被成、其後松平丹後守樣御前樣御守二

被 仰付、久々御奉公仕候故、隱居之御訴訟申上候、拙者家

督仕候、三百石之内貳百石被下之、大小姓並二而御奉公仕候、

相殘百石八同姓庄之助二被下置候、拙者儀福嶋民部三男二

御座候、造酒実子無御座二付而、名跡二罷成候、先祖之儀

同姓伝内委細可申上候、以上

浅間半左衛門

一、景勝様御代、於越後浅間石見執權被 仰付、右之跡

役上村美濃仕、其役儀泉沢河内二被 仰付候、祖父

修理、長手組御足輕五十人被 仰付、信夫最上両御陣二

足輕召連罷立候 △景之御 一字拝領仕御書未

所持仕候、外二御書御座候 △叔父同姓大膳義、潟上名跡二

罷成申二付而、拙者親五郎兵衛修理跡家督仕御奉公廿七

歳二而御加増始而被下置候、馬上並二被 仰付、御奉公仕

病死仕候、嫡子五郎兵衛百石二被 仰付、御奉公仕処二、鍛冶橋

御新造様御守二被 仰付、御加増百石拝領仕、六ヶ年

相勤、三十八歳ニて存念御座候付而切腹仕候故、五郎兵衛ニ被下置式百石之内、拙者二百五十石、弟盛右衛門ニ五十石被下置、兄弟共ニ御奉公仕候、以上

登坂甚兵衛

一、登坂治部と申者越、後之内上田関と申在所ニ罷有候、治部

嫡子宮内と申候、宮内嫡子甚兵衛と申候、甚兵衛義、越後ニ而

走廻御奉公申上候証文御座候、通書仕差上申候、関東

軍勢坂戸山へ迎候時分、鈴尾、千田、高柳と申者三人之所へ

証人取、右三人之者共手ニ付御味方へ降参被為致候、其時

為御褒美御書被下置候、未所持仕候 △其後庄内

小国と申所之御城ニ被差置候、城下仕置等可仕由被

仰付候段、直江山城守奉ニ而甚兵衛ニ被下置候、書札未

所持仕候、高麗御陣之時分ハ、右之御城ニ被指置付御

供不申候、為御機嫌窺名子屋之地迄飛脚并御音

物差上申所ニ、即御返札被下置候、未所持仕候、右甚兵衛

御知行、越後会津迄千石被下置候、会津より米沢へ

御国交之節、五十騎之宰配頭被 仰付候、其時分知行

三百三十石被下置候得共、信夫ニて野府知行ニ付而、野府

之分指上申候、貳百廿石所納仕候、慶長六年十月十六日

平林蔵人判形所持仕候 △登坂甚兵衛男子持不申ニ付而、

深沢平右衛門三男甚兵衛孫ニ御座候、養子仕平右衛門と申候、

慶長十三年十一月、平右衛門十一歳、甚兵衛跡式貳百廿二石

無相違被 仰付候、右平右衛門十三歳より景勝様御近習ニ被召仕候、

景勝様御遠去以後、御中ノ間へ被召加、寛永廿年六月長手

御足輕組被 仰付、其後明暦三年四月三十人頭被

仰付、寛文十二年十二月病死仕、跡式実子拙者ニ被 仰付候、以上

登坂金右衛門

一、曾父登坂修理儀、越後之内上田山中浅貝之城ニ被指置候、

修理病死仕、実子角内ニ跡式被 仰付、天正六年春日

山ニ有詰、御錯乱中御奉公相務候、以後森名左衛門 御前ニ而

狼藉仕取籠申所ニ、幸角内当御番ニ罷有、為取合名左衛門

打留申候ニ付而、当座之為御褒美名左衛門刀脇指卷

物五本拝領仕候、越後より会津米沢迄御国交之御供仕

罷越申候、然所ニ、大善院、明鏡院同行出入ニ付而蒙御

勘気之内、病死仕候、親作左衛門角実子ニ御座候、角内

御勘気之内、御扶持分ニて御奉公仕候、大坂両御陣

御供相勤、其以後 定勝様御部屋住之御奉公被 仰付

寛永元年ニ新知五十石被下置、其後為御加増百

五十石拝領仕、貳百石ニ罷成、明暦三年ニ御鉄炮組御足

輕五十人御預被成、三百石被下置、寛文元年ニ隱居仕、
実子拙者ニ家督百石被 仰付、当年迄拾七年御奉公申
上候、以上

佐藤瀬兵衛

一、祖父佐藤与五左衛門、越後上田庄瀬之内深原と申

所ニ罷有候、 謙信様御代所々御陣御供仕御奉公仕、

知行、深原、向松川、下倉、今泉、山田、七日市村右六ヶ

所村所納可仕由、未目錄所持仕候 △天正八年七月

十五日枋尾之地城代、佐藤甚助、同与五左衛門兩人ニ被 仰付候、

志田無兵衛分御加増拝領仕被下置候、御書一通所

持仕候、奥陣高麗御陣御供仕候、△越後より会津御国

交之刻、御供仕御知行四百石被下置、所々村付御代官所より

目録未所持仕候、会津ニ而段母衣之御鉄炮組、発知新左衛門、

佐藤与五左衛門兩人ニ五拾挺宛御預被成候、山岸中務奉ニ而

被 仰付候、則御書付未所持仕候、右之御鉄炮御上洛ニ

為御持被成付、則組之者召連御先乗兩人ニ可仕由被仰付候、

右同御炮砲被差添、信夫築川陣之刻、右之発知佐藤

会津より為御加勢築川へ被遣、同年九月より十月迄有

有詰罷有候 △会津より米沢へ御国替之時分御足輕

組召連、御当地ニテ御知行百三拾三石被下置候内、

信夫二而荒地四拾四石差上、御当地二而八十八石八斗

所納仕候、慶長拾年祖父与五左衛門隱居仕、実子親

与五左衛門二本知八拾八石被下置、親与五左衛門、大坂両御陣

御上洛両度之御供仕候 △正保三年二御留守番組被

仰付、加増拝領三百石二罷成、万治二年 綱勝様御

在江戸之時分、京都御前様為御迎、樋口傳兵衛、

親与五左衛門兩人江戸二而被 仰付罷登候、寛文二年江

戸御上下之御先乗被 仰付、同三年之秋御下国二

御先乗相勤、同四年之春年寄申付而、他国御軍役

御免被成、居役二て罷有候、寛文十一年二与五左衛門隱

居仕、拙者家督五十石被 仰付候、以上

角屋太郎兵衛

一、先祖代々越後御譜代ニ御座候、 景勝様会津江

御国替之時分、太郎左衛門と申、御足輕大将ニて御供仕、

会津被成御座候内、築川御一乱之節、御馬廻より築地

修理、五十騎より角屋太郎左衛門為御加勢被遣、大学仙台へ

心合、修理太郎左衛門見届、右之趣大炊殿へ申上候得者

注進之由被仰、則大学父子共ニ御城江押籠右兩人

御付被差置事静迄有詰、会津江罷帰候由承伝候、

其以後御当地へ御国替ニ付御供仕、翌年病死仕、実

子太郎右衛門廿九歳ニ而跡式六拾石被下置、十三年

御奉公仕、致病死、実子太郎左衛門十八歳ニ而跡式無

相違被仰付、定勝様御代ニ御加増拝領貳百石ニ

罷成、御奉公仕候、綱勝様御代隠居仕、実子

拙者四十歳ニ而跡式五十石被下置、八年御奉公仕候、以上

売間甚五左衛門

一、拙者五代先売間養幽と申、管領様從関東

越後へ御越之節御供仕罷越、其後養幽相

果、実子無御座ニ付而、鉄上野弟又次郎名跡被

仰付、政景様野尻之地ニ而御生害之刻、從

謙信様御供被 仰付、御同舩ニ乗申御入水之節

又次郎御介船罷出候得共不叶、政景様御同前ニ

入水相果候所ニ、実子無之、弟与市郎ニ跡式被下置、

則又次郎ニ罷成、後ニ甚五郎左衛門と申候、景勝様御

代天正九年二月九日為御加増長嶋之内式拾貫

之所同年十一月栃生之内式十貫之所拝領仕、御

朱印両通未所持仕候、此外上下七人ニて諸関所

無相違罷通宿送迄之御朱印共ニ所持仕候、親

刑部被召仕候所ニ、慶長五年ニ甚五左衛門会津ニ而病死

仕、則十三歳ニ而跡式無相違被下置候、右之御近習ニ罷有、

十四歳御無事之御上洛御供仕候、京都ニ而御国替之

儀被 仰渡、御下之時分御当地へ罷越候、大坂御一乱

之時分も御供仕候、 綱勝様御代、正保二年ニ刑部

隠居仕ニ付而、同四年拙者江戸御番相務申所ニ、同年九

月刑部被召出御加増百五十石被下置、貳百石ニ罷成候、

寛文十一年病死仕、拙者ニ跡式五十石被仰付候、以上

池田甚左衛門

一、先祖越後御譜代ニ御座候、祖父池田仁右衛門月清様へ

御奉公申上、其以後 定勝様御部屋住其時江戸へ定詰

御奉公仕、初而御国入之年新知八拾石拝領仕、嫡子

加右衛門二十五石被下置、仁右衛門ハ御膳部役 被仰、付加右衛門

ハ御納戸江被召仕、御奉公申上候、仁右衛門年寄隠居仕、

二男仁右衛門ニ無相違被 仰付候、然所ニ祖父仁右衛門、以

上意御茶之間之将被 仰付、父子共ニ御扶持被下置、御

奉公申上候、右之跡目組外内池田兵右衛門相続仕候、

綱勝様御代、養父仁右衛門病死仕、実子無之ニ付而

小見佐助世倅拙者聲名跡ニ仕、無相違八拾石

被下置、其後五十騎へ被召加、廿年御奉公仕候、以上

一、曾祖父左近、御錯乱ニ励忠勤御軍役相務、天正九年

北条之内小佞加賀分被下置候、御朱印所持仕候、同

十五年新発田御陣之、砌辰之下刻ニ左之眼為射、

險戰場故其矢拔申間無之、申之刻迄走廻、頸一

討捕御前へ実験、無比類働之段被遊 御感、山田

因獄ニ被 仰付、矢之根為御貫、御褒美被成候由申伝候、

同十八年関東御陣仙道迄御供仕、文禄元年高

麗御陣相勤、同三年苅和郡之内井筒女之助分

拝領仕、泉沢判形未所持仕候、慶長三年御国替

会津ニ而弍百石被下置、同六年御上洛之御供仕、

御当地ニ而六拾石被下置候、馬持申ニ付而飼料中間扶持

被下置、同十二年曾祖父左近死去、祖父左近跡式被下

置、同十六年百挺御鉄炮十人御預、同十九年越国高

田御普請奉行被仰付、同年元和元大坂両御陣相

勤、同三年祖父左近病死仕、親左近ニ跡式被仰付

寛永十六年病死仕、拙者ニ跡式被仰付、定勝様御

代より御奉公仕、寛文六年江戸御蔵役被仰付候、当

年迄卅九年御奉公申上候、以上

永井八左衛門

一、曾祖父永井与左衛門、越後御譜代五十騎ニ罷有、会津

迄御供仕、其後米沢へ御移之刻、六拾石二被 仰付候 △右

与左衛門男子無之二付而、与板組之内平賀惣左衛門子弥惣

聲名跡二仕、右之御知行無相違被下置、右之弥惣病死

仕、実子惣左衛門二跡式六拾石被下置、其後病死仕候、実

子拙者十歳二而跡式被下置、六拾石二罷成候、幼少故

先祖委細之儀不存候、御奉公之儀、当年迄卅四年相勤申候、以上

小森沢孫左衛門

一、曾祖父小森沢肥前、於越後二知行所、金子美濃

分、古志郡之内、梅俣、梅楨式ヶ所、并頸城郡之内大崎

郷之内春田拝領仕、証文未所持仕候 △関東沼田籠城

之刻走廻御奉公仕、其後御馬屋頭被仰付、会津御当地

迄右之役義相勤申候 △大坂両御陣、肥前惣領半助共二

罷立、御帰陣已後半助病死仕候二付而、実子伝次二跡式

被仰付、六拾石被下置、定勝様御代御近習二被召仕、御

加増拝領百石二罷成候、大小姓へ被召加、其後五十騎之御

奉公仕候、慶安元年親病死、跡式拙者二六十石被下置、

当年迄十八年御奉公仕候、以上

上村十兵衛

一、祖父上村喜左衛門、越後御譜代上田二罷有御奉公仕候、

從 景勝様、山室、妻有兩所之内御知行二被下置候、御朱印

共二拝領仕候、会津此方迄御供仕、其後隱居仕、嫡子

藤兵衛跡式被 仰付、右之御朱印共二同姓藤兵衛所持

仕候、右之喜左衛門二男上村又次郎、 景勝様御代若輩故

御小姓二被召仕、米沢迄御供仕、慶長十五年九月十七日

平林藏人判形所持仕、新知百石拝領仕、斎木内藏同

前二御膳番被 仰付、御奉公申上候、病死仕、実子拙者二

歳二罷成候二付而、成人仕候者右御知行御返可被下由、

平林藏人以被 仰付候、其後志駄修理堪忍分之由二而

御扶持被下置、無程 景勝様御遠去故、右之御扶持二而

罷有候、 綱勝様御代拙者親又次郎、 斎木内蔵同前二

被召仕候段、 松木石見品々被申上、 五十石被下置、 御当

代迄卅壹年御奉公仕候、 以上

角屋茂兵衛

一、 上田御代々御譜代 二御座候、 祖父藤右衛門、 越後会津

米沢迄御供仕、 定勝様御代御足輕組被 仰付、 藤右衛門

年寄病死仕候、 孫勘兵衛百石被下置、 跡式被 仰付候

所二、 無程相果申候故、 長尾右馬二男拙者二名跡被 仰付、

御奉公申上候、 以上

鈴木弥右衛門

一、曾祖父勘助、天正八年小湊新八郎、宮嶋半助、新

林分、角田甚八郎、熊倉右近、右五人分之地 景勝様

御代被下置候、御朱印未所持仕候、会津米沢迄御供

仕、御知行五十石被下置、年寄隱居仕、実子彦右衛門二

被 仰付、寛永十三年二病死仕、男子無御座二付、龍口次左衛門

子勘助名跡二被 仰付、明暦三年二死去仕、実子無御座

故、勘助存生之内中俣兵左衛門二男拙者養子二仕、跡式

被 仰付被 仰付、当年迄廿二年御奉公仕候、以上

宮原庄之助

一、曾祖父宮原監物、越後之内三条二罷有、御奉公申上

病死仕候、実子主水ニ跡式被 仰付、 景勝様へ御奉公

仕、越後会津米沢迄御供仕、五十石被下置候、定勝様

御代御加増本知共ニ二百石ニ被 仰付、御奉公申上、病死仕候

△実子市右衛門、 定勝様御部屋住より御奉公仕、御扶持

被下置、主水病死仕、跡式五十石ニ被 仰付、 綱勝様

御代迄御奉公仕、病死申候、拙者儀聲名跡ニ御座候、

綱勝様へ御小姓ニ被召仕、其後御手水番被 仰付、御一代

御奉公申上候、 綱勝様御遠行之後、五十騎江被召出、

然所ニ市右衛門病死仕、拙者ニ跡式被 仰付、当年迄

廿三年御奉公仕候、以上

桜井三助

一、曾祖父桜井三助、越後ニ而根知と申所之御城ニ被差置候

由承伝候、米沢御移已後弍百六拾六石六斗被下置候、

曾祖父病死仕、祖父三助ニ跡式被仰付、本知無相違被

下置、寛永十三年ニ御使番被仰付御加増仕三百石ニ罷成、

寛永十七年ニ病死仕候、親三助ニ跡式右本知被下置、

明暦三年ニ御使番役被仰付、寛文元年御奏者

番被仰付、御加増被下置四百石ニ罷成、寛文五年ニ病死

仕、実子無之ニ付而、河田五郎兵衛子聶ニ仕、跡式五十石

被下置、無程病死仕ニ付而、山田弥五右衛門弟拙者跡式被

仰付、廿五石被下置候、以上

清水三右衛門

一、先祖清水内蔵之助、嫡子采女、父子共ニ作州ニ被差置候

付而、采女ニ新地廿五貫文被下置、其より代々嫡子ニ被下置候、

会津ニ而祖父与七郎貳百石被下置、御当地御国交之御供

仕、六拾六石六斗六升被下置、祖父内蔵之助病死仕、七左衛門

跡式被 仰付、右之六拾六石六斗六升之地七左衛門弟ニ御

座候、親三右衛門ニ被下置、御半地ニ罷成三拾三石三斗三升ニ

罷成候、親三右衛門病死仕、跡式拙者ニ廿五石被下置候、

委八同姓七左衛門可申上候、以上

登坂利左衛門

一、登坂与三右衛門、越後御譜代五十騎ニて御奉公申上候、与三右衛門
子四郎右衛門、別而直江山城殿へ奉公仕ニ付而、四郎右衛門実子
清右衛門、右与三右衛門跡式相続仕候、右清右衛門病死仕ニ付而、
実子拙者親清右衛門ニ跡式被 仰付、近年迄跡式被 仰付、
御奉公仕候、以上

阿部与兵衛

一、養父安部午兵衛、同氏仁助末子ニ御座候、
定勝様御部屋住之時分、御歩行之御奉公申上、
御上洛両度相務、 綱勝様御代新知五十石被下

置、五十騎へ召加候　△拙者片桐六郎左衛門二男二御座候、
養父平兵衛、寛文四年二病死仕二付而、跡式被　仰付、
当年迄十四年御奉公申上候、以上

西海枝伝内

一、謙信様信州江御出馬之時、西海枝主計討死仕候、
右実子右馬之丞走廻御奉公申上候、大渡之地被下置、
則其所二被差置候時分從　景久様被下置御書
数通于今所持仕候、右実子源七郎　景勝様御代
越後会津米沢迄御供仕死去、実子久兵衛二跡式被下置、
定勝様御代病死仕、実子庄之助二跡式五十石被下置、

此相馬文政年中斷絶

其後同姓造酒隱居仕砌、庄之助二百石被下置、百五十石二
罷成御奉公仕候、庄之助死去仕、拙者樋口惣左衛門三男聲
名跡二繼目被仰付候、拙者儀綱勝様御時御小姓二
被差加、御奉公申上候、以後五十騎江被召加候、已上

青木久兵衛

一、祖父青木帶刀、越後上田二而御知行拝領仕、越後
会津米沢迄御供仕、年寄隱居仕、実子十右衛門
跡式五十石被 仰付、寛文十二年二病死仕、跡式拙者二
被 仰付、当年迄六年御奉公仕候、以上

相馬勘左衛門

一、祖父加兵衛、越後御譜代、中越後之内大茂山之

御城、御本丸二八丸田掃部、二ノ御丸二八相馬差添

被差置候由承伝候 △御帰陣之上御加増被下置

地所、下条村、黒坂村合廿三貫六百五拾八文、家数十

七、野山百姓共二被下置候、証文未所持仕候、拙者之儀

聲名跡二御座候、当年迄卅七年御奉公仕候、以上

佐藤久三郎

一、祖父清右衛門、越後此方迄御守一番目之番頭被

仰付、御知行五拾石被下置、 定勝様御代二十五騎へ

被召加候、新助儀ハ御部屋住より御歩行之御奉公仕、右

新助佐藤源右衛門嫡子ニ御座候、祖父清右衛門惣領ニ御座候

付而、名跡ニ罷成、則五十騎並ニ御奉公仕候、拙者朝岡吉左衛門

三男ニ而、明暦三年新助養子ニ罷成、寛文三年新助

隠居、則跡式拙者ニ被 仰付候、以上

松川弥左衛門

一、祖父弥左衛門、越後上田ニ而御奉公申上候、会津米沢迄御

供仕、五十石被下置、寛永八年ニ 定勝様御代御

加増拝領五十石ニ罷成、御守番頭被 仰付、度々御上洛

之御供仕候 △寛永十七年ニ御堂役被 仰付、其以後

五十騎江被召加、年寄隠居仕、正保四年ニ実子拙者ニ

跡式被 仰付、御奉公申上候、以上

大平新右衛門

一、祖父新右衛門、越後御譜代御膳部ニ被召仕候、病死

仕付而、親又七ニ跡式被 仰付、御膳部ニて御奉公申上候、

親病死仕、拙者幼少之時分跡式被下置、五十騎へ

被召加、御奉公仕候、以上

水沢権右衛門

一、祖父彦右衛門、上田之内ニ罷有候、越後会津米沢迄御

供仕、慶長九年御守御手明衆將被 仰付、相勤申候、

定勝様御代ニ御手明計支配仕、祖父彦右衛門寛

永十一年病死仕候、実子彦右衛門ニ跡式被 仰付、御奉

公仕候、其後正保四年、親彦右衛門五十騎へ被召加、寛文

十一年隱居仕、跡式実子拙者ニ被 仰付、御奉公申上候、以上

矢嶋善右衛門

一、先祖円助、越後ニ而北条之内四ヶ所御知行、天正九年ニ

被下置候御朱印所持仕候、会津米沢迄御供仕、隠

居致、実子善右衛門ニ跡式被 仰付、御守ニ被召加御奉公仕候、

寛永三年ニ五十騎へ被召加年寄隱居仕、実子ノ九右衛門ニ

跡式被 仰付、御堂御番相勤、九右衛門相果、実子与三郎ニ

跡式被 仰付、五十騎被召加、病死仕ニ付、継目拙者ニ被

仰付、御奉公仕候、以上

片桐次郎左衛門

一、親三助、越後御譜代、会津米沢迄御供仕候、

景勝様御代、廿五石被下置、御守之御奉公仕候、

定勝様御代、廿五石御加増拝領仕、五十騎江被召加、病

死仕、実子拙者跡式五十石被下置、当年迄廿四年

御奉公申上候、以上

阿部三太郎

一、阿部右衛門、越中於魚津ニ討死仕候、則御書御

判形共二四通未所持仕候、跡式之儀は実子無御座

付而、右衛門舅御馬廻岩舩逸作次男善左衛門二被

仰付、所々御陣共相勤、病氣故隱居仕、跡式嫡子

仁助二被 仰付候、 定勝様御部屋住より御奉公仕、御加

増拝領式百石二罷成、綱勝様御代御加増被下置、三百

石二罷成、御鉄炮御足輕組被 仰付、寛文八年二病死

仕、実子吉蔵二跡式被 仰付、寛文十年二吉蔵相果、

跡式仁助嫡孫拙者二被 仰付、御奉公仕候、以上

黒井七兵衛

一、祖父弥右衛門、御守之御奉公仕、御知行廿五石拝領

仕、定勝様御代五十騎並二被召加、病死仕、実子

弥次右衛門 二跡式被 仰付、無程病死仕候、古畑忠左衛門子
清兵衛 二跡式被下置、御奉公仕候、病者故隱居仕、金子
庄兵衛 三男拙者 二跡目被仰付候、以上

福王寺名兵衛

一、福王寺兵部、嫡子弥太郎、御錯乱之砌神妙 二働申

付而御感状頂戴仕候、兵部死去仕跡式弥太郎 二

被 仰付、已後大膳 二罷成候、慶長十六年大膳死去仕、

実子名兵衛 二跡目被 仰付、寛永元年 二御加増拝領

貳百石 二被 仰付、同三年 二御上洛之御供相勤

申候、名兵衛嫡子仙助、定勝様御部屋住より御扶持

拝領仕、各二御奉公申上、寛永九年名兵衛病死仕、

跡式仙助二被 仰付候、仙助跡御扶持弟彦兵衛二被下置候、

延宝弍年迄四十五年相勤、年寄隠居仕二付而、御馬廻

之内秋山九左衛門二男拙者聲名跡二仕、当年迄四

年御奉公仕候、右之御感状所持仕候、以上

目崎忠兵衛

一、先祖之儀は親三郎左衛門申上候、拙者御奉公之儀、

綱勝様御近習二被召仕、其後五十騎へ被召加、御奉公申

上候、以上

高野徳兵衛

一、先祖之儀、同姓刑部委申上候通二御座候、拙者

二男二付而、佐藤平左衛門宰配頭之時分、新小姓之御扶持
被下置、其後淺間甚兵衛宰配頭之時節、軍役御扶持
被下置、御奉公仕候、以上

外山十郎右衛門

一、倉加野長左衛門弟外山長五郎、御亀様御誕生被遊、

母姉被召仕二付而、拙者六歳より二人扶持被下置、伯父外山

縫殿養子分二仕差置申所ニ、正保四年拙者十六歳より

御亀様へ被召仕、江戸定詰被 仰付候 △御姫様松平

飛騨守様へ御縁定二付而、万治二年ニ新知百石并

十人御扶持被下置、母ハ局役仕、姉拙者三人共ニ御祝言之

御供被 仰付候、御前様御遠去之年、右之御知行御

扶持共ニ被召上、式人御扶持ニ七石被下置、五十騎へ被召加、当年

迄三十年御奉公仕候 △縫殿祖父源七、天正之頃高

麗御陣相勤、首尾好ニ付而、為御褒美北条之内神直

分、下村与三分式ヶ村被下置証文御座候、委ハ同姓金十郎

可申上候、以上

村山新蔵

一、先祖同氏三郎右衛門、越後御譜代、其後三郎右衛門病死仕、

実子左近ニ跡式被 仰付候、左近於越後ニ長柄廿人

御組ニ被召加、会津へ御国替之時分、発知新左衛門、長谷川

監物、村山左近ニ御知行被下置候、会津より米沢へ御国交御供仕罷越候、於米沢ニ御知行五十石被下置候、其後御茶

詰役被 仰付、其以後五十騎へ可召加候得共、年寄申故在郷

在郷役義被 仰付候所ニ、寛永十二年ニ御勘氣ニ罷成、

其後左近病死仕候、 定勝様御遠去、正保四年ニ実子

善兵衛被召出、御扶持切米被下置、五十騎へ被召加、年寄

隠居仕、実子拙者跡式被仰付候、以上

今井六兵衛

一、先祖之儀、親喜右衛門申上候、 綱勝様御代万治

二年ニ御近習ニ被召仕、御遠行已後御扶持切米被下置、

寛文四年二十五騎へ被召加候、先祖委細喜右衛門可申上候、以上

林牛之助

一、同姓藤七郎御奉公仕病死致、実子与次右衛門若輩故、

藤七郎弟藤左衛門陣代仕、其以後与次右衛門二軍役相

渡申二付而、五人御扶持被下置候、無程藤左衛門養子二仕、実

実子勘四郎二跡式五人御扶持被下置、御奉公仕候、病死

仕二付而、実子拙者右之御扶持被下置、御奉公仕候、委は

林六郎右衛門可申上候、以上

相馬藤兵衛

一、曾祖父加兵衛、中越後大茂と申所本知被下置候由承

伝候、祖父藤兵衛、会津より御国交以後、御扶持ニ罷成候、

拙者若輩之時分、祖父藤兵衛病死仕ニ付而、委細存

不申候、同姓勘左衛門所ニ御加増被下置候、御判形未所持

仕候、以上

武頭

ノ四拾八人

長尾九郎兵衛

祖父長尾伊賀儀、上田ニ罷有候、其後北条丹後守御

横目ニ被 仰付、栴沢と申所ニ被差置候由承伝候、御館乱之

時分、栴沢立除上田江罷帰候節、妻子敵地へ被押被誅

申二付、御忠信仕由二而御感状頂戴申候、右伊賀、

上田へ罷帰候以後、直路之城代被 仰付、越後より会津

此方迄御奉公仕、米沢二而五十騎宰配頭被 仰付、其

後病死仕候 △伊賀実子右馬、 定勝様御代三十

人頭被 仰付、寛永十五年病仕候、実子拙者二跡式

百石被下置、正保元年、 定勝様御代御加増百石、

貳百石二罷成、其後寛文十年二御留守番組

御頂、其後、延宝二年二三十人頭被 仰付、御奉公申上候、以上

山吉次兵衛

一、山吉孫五郎、越後三条ニ罷有病死仕候、実子玄蕃

若輩故伯父同姓玄蕃入道名代仕候、其時分隠居

之身立ニて新潟之地乗捕申ニ付而、景勝様御感状

一通被下之、未所持仕候 △祖父玄蕃、越後ニ而三条と

新潟之境、木場と申所之御城守罷有候、右玄蕃

抽忠信付、天正八年ニ本領并木場之地被下之

景勝様御朱印 一通未所持仕候、右玄蕃新潟之

津無 一字焼払、其上数百人討取、竹田与助生捕申

付而、景勝様御感 一通被下之、未所持仕候、新潟

沼垂両地之武主討捕給指上申ニ付而、景勝様御

感狀一通、甘粕近江、山吉玄蕃両之名付二而被下之、未

所持仕候、右玄蕃実子山吉次兵衛 △ 定勝様御代、親

次兵衛御夫番二被 仰付、其後御鉄炮御足輕組御預、

其以後三十人頭被 仰付候、隱居仕実子拙者家督

被 仰付、延宝元年四月御鉄炮御足輕組被 仰付候、以上

小川次郎左衛門

一、先祖小川源左衛門、關東上田之境目、浅貝と申城へ

押二被遣、討死仕候由承伝候、曾祖父源左衛門、府内御

館乱之時分、御人数退兼申所二退為差申候得由 上意二

御座候、御眼前二而討死仕候由承伝候 △祖父与七郎、

右源左衛門男子無御座ニ付、深沢和泉次男ニ御座候、聶

名跡ニ仕、新発田反逆之時分討死仕候　△親源左衛門、

右与七郎実子跡式被仰付、越後より御奉公、御当地迄

御供仕、御足輕組御預、其後　生善院様御守被

仰付、江戸へ罷登、御知行五百石被下置、御奉公仕候、拙者

儀源左衛門実子、万治二年ニ親跡式被　仰付三百石

被下置、五十騎へ被召加、寛文十年御足輕組御預、御奉公仕候、以上

丸山治部右衛門

一、曾祖父丸山無兵衛、越後三条ニ被差置、数度走廻無比

類由ニて、上田上川大崎村之内大津分被下置　御判

形未所持仕候、其後越中境為御横目御足輕三十人御預

被遣、以後新発田御合戦之砌討死仕候 △祖父勘之丞越

後春日山ニ有詰方々相働御奉公仕付而、頸城郡之内曾根

村、大口村、風卷新惣分、右持分外被下置、御書出所持仕候、

右勘之丞嫡子勘之丞、幼少故下平左馬之助子仁助

致陣代、会津より米沢へ御移迄仁助御奉公仕、其後勘之丞

名跡請取知行六十石被 仰付、大坂御陣御供仕、

定勝様御代御加増弍百石被下置、戌之年御上洛ニ

御供仕、其後御使番ニ被召加、御加増被下置三百石ニ

罷成、御鑓組五十人御預、明暦二年ニ病死仕候、右之

勘之丞実子無御座ニ付、拙者聳名跡ニ申立、跡式百

五十石被下之、寛文二年御加増拝領式百石ニ被 仰付、

御当代百石ニて御奉公仕候、拙者父三瓶大蔵二男ニ

御座候、以上

江口与五右衛門

一、房定様江御奉公、江口彦多郎、改名縫殿之助と申候、連年

度々陣勞仕段被遊御感、文明五年六月廿七日御書頂戴

仕置候、右彦太郎子与三郎、後ニ式部と申候、関東御陣之砌、武州

之内秩父郡内へ為御先勢被遣候、文明十二年三月十八日ニ御書

頭戴仕候 △房能様へ御奉公、高祖父右之子江口弥太郎、

後ニ式部と申候、関東御陣之砌、武州内上戸へ被遣候刻、向相州

相働申段被遊御感候御書頂戴仕候 △為景様へ御奉公

△曾祖父右之子江口与三郎、後安芸と申候、上田之庄牢人

乱入之所、彼口張陣得大利ニ付而被遊御感、御書頂戴仕候 △

輝虎様へ御奉公、祖父右之子江口善太郎、後式部と申候、年

頭之御祝儀指上申候御書頂戴仕候 △景勝様へ御奉公、

右之式部三ヶ年已前錯乱之間抽御奉公ニ付而、江口安芸守

分被下置候御書、天正九年十一月晦日ニ頂戴仕候 △祖父

式部、会津米沢迄御供申、隠居仕、嫡子織部跡式被 仰

付、五十騎ニ罷有候所ニ、織部男子持不申ニ付而、五十騎組之

内渡部庄右衛門弟甚助、聲名跡ニ申上、家督被 仰付候、

甚助他名より江口名字相續仕ニ付而、先祖へ之御書御

感狀、祖父式部拙者親善五郎ニ子々孫々迄所持申様ニ

と申相讓申ニ付而、未所持仕候、名字惣領ハ同姓権十郎ニ

御座候、 定勝様御八歳之時、慶長十六年より父

善五郎御部屋住之御奉公仕、其後御番頭被

仰付、官途之儀も主膳ニ可罷成由被 仰付候間、 一代

主膳ニて罷在候、其以後寛永四年五十石拝領仕、

五十騎へ被召加、寛永十壹年御加増被下貳百石ニ而、

綱勝様御代迄御奉公仕、病氣故樋口主水宰配

之時分隱居之訴訟申上、慶安四年跡式無相違

式百石拙者二被 仰付、段々実子二而御奉公仕候、以上

桑原善右衛門

一、祖父民部、 道叟様御近習御奉公仕候、 景勝様

御代、親次郎右衛門、御守組頭被 仰付、御奉公申上、

定勝様御代、御加増五十石拝領百石二被成、五十騎へ

被召加、其已後式百石二被成置、信夫御横目被 仰付、

御奉公仕候、 綱勝様御代隱居仕、跡式無相違拙

者二被仰付御奉公仕候、以上

西方次郎右衛門

一、曾祖父西方次郎右衛門、越後上田御譜代ニ御座候、天正

年中赤見伊賀跡役、根知在城被 仰付候、其節

被下置御書未所持仕候、右次郎右衛門、天正十年新発田

乱之時分、楠川、出雲兩人御手明之者支配仕候而、抽忠信

候由、御書未所持仕候、右次郎右衛門、同年御知行被下置候

御朱印未所持仕候、右同人、天正十一年信州之内

仁科領自分ニ而切取申ニ付而、仁科領一跡被下置候、

御朱印未所持仕候、其節、 景勝様御直ニ朱柄之宰

配被下置候、所持仕候 △越後之内千国之地落居之時分も

稼申故、御書被下置候、未所持仕候、△根知より会津へ御

供之仕罷越之刻、御上洛ニ付而直江山城守殿御作事ニ而、

次郎右衛門儀年寄申候間、世忤与五郎京都へ御供仕候由

可申候由ニて、隱居被 仰付候刻、与五郎京都へ御供仕候而、

与五郎儀ハ西方二郎兵衛親、後大炊之助と申候、然所ニ二郎右衛門

隱居仕儀、於京都 景勝様被召聞上、御前ニ無御存事ニ

候間、罷登候得と被 仰付候間、京都へ被召登、新知千石

被下置、会津御下向之上白川之地へ被遣候、本城ニ芋川

越前、二ノ丸ニ平林蔵人、西方次郎右衛門、右三人被差置候、

白川ニ有之内、諸事御用ニ付而被下置候御書共

未所持仕候 △米沢御打入之刻、右同人三百三拾石ニ

被成候而、二ノ御丸ニ被指置候、福嶋掃部病死之後、御城

代被 仰付、御用相勤候内ニ病死仕候、本知之内百石

は信夫ニて荒地相渡候間、差上申候而、二百三拾石ニ而

罷有候 △祖父次郎右衛門、家督無相違被下置、御城代

仕候、其上八百人之足輕支配仕候而罷有所ニ、

定勝様御代御入部之刻、五十騎へ被召出、其後三十人

頭ニ罷成、其以後深沢平右衛門跡役被 仰付、宰配頭ニ

罷成候而病死仕候、親次郎右衛門跡式弐百石被下置、

御先代足輕頭被 仰付、其後三十人頭ニ罷成、御当代

浅間甚兵衛跡役宰配頭被 仰付、翌年病死仕、

実子拙者跡式被 仰付、御奉公仕候、以上

山崎伝左衛門

一、定勝様御代、祖父主殿御使番仕、其已以後町奉行

被 仰付、実子吉兵衛御近習ニ被召仕、其後大小姓ニ被召仕、

主殿後五十騎ニて御奉公申上候、叔父吉兵衛男子無御座ニ

付而、大橋逢右衛門二男拙者聲名跡ニ仕、慶安四年

跡式弍百石被 仰付、御奉公仕候、以上

下平与次右衛門

一、祖父彦兵衛、吞嶺之御城ニ被差置、其後樋口伊予

被差置、会津御打入之歳仙台より和田村へ正宗手

向之刻、山吉玄蕃、下平彦兵衛夜盜組ニ足輕三百人

被差添被遣候、浅森山ニ陣所未御座候、米沢へ御打入迄

組召連罷越候、下平左五之丞御使番被 仰付候、拙者

桑原次郎右衛門二男ニ而聲名跡ニ罷成、御奉公仕候、以上

長尾伊右衛門

一、拙者祖父長尾伊賀、上田ニ罷有候、其後北条丹後守御

横目被 仰付、栴沢と申所ニ被差置由承伝申候、御館乱之

刻、栴沢立除上田へ罷帰候節、妻子敵地へ被押被誅申ニ付而

御忠信仕、御感状未所持仕候、右同人上田へ罷帰候刻、

伊賀も直路之城代被 仰付、越後より会津此方迄御奉公

仕、五十騎宰配頭被 仰付候 △伊賀嫡子隼人、拙者親二御

座候、隼人儀伊賀存生之時分御取立以別而御奉公仕、大小姓

之番頭被 仰付二付而、伊賀跡式ハ長尾九郎兵衛右馬二被

仰付候、隼人嫡子与十郎ハ拙者兄二御座候、定勝様

寅之年御上洛供奉、於京都病死仕、与十郎跡式拙者へ

被 仰付候、以上

佐藤平左衛門

一、佐藤入道、同実子清左衛門、越後古志郡二而 政景様

御代父子共二討死仕候、右清左衛門実子彦四郎、後二石見

と申候、右入道并清左衛門討死仕候、為御忍賞、越後

名田之内立来土貢知行分ニ被下置、政景様御判

形頂戴仕候、其後新発田之城代被 仰付候、其頃之御

朱印未所持仕候、右石見実子平左衛門、越後より会津此方迄

御奉公仕、其上平左衛門五十騎之宰配頭被 仰付候、綱勝様

御代迄段々御奉公相勤、年寄申隠居仕、実子加兵衛

跡式被 仰付、即御足輕組御頂、三百石被 仰付、御奉公相勤、

明暦三年ニ加兵衛病死仕ニ付而、実子拙者ニ跡目百

石被下置、御当代半石之御知行並ニ被下置、御奉公仕候、以上

泉沢新右衛門

一、泉沢河内実子無御座候故、名字退転仕候所ニ、河内娘

岩田 徳松様へ御奉公仕ニ付而、河内甥五十騎之内青木左内

二男右近ニ泉沢名跡被 仰付、寛文十一年御知行五十石被

下置、五十騎へ被召加候、同十四年ニ五十石御加増被下置、御

中之間へ召加、万治三年迄御奉公仕、病氣故隠居仕、

実子私ニ被 仰付、百石被下置、御奉公仕候、以上

横田安兵衛

一、祖父三郎左衛門、越後三条ニ被差置、会津米沢迄御供仕、

御足輕御預、其以後三十人頭初而三組被成立候ニ付而、祖父

三郎左衛門ニ忝番組被 仰付、五十歳ニ而病死仕候、右実子

三郎左衛門、若輩ニ而知行無相違跡式被 仰付、

定勝様亥之歳御上洛御供仕、十七之年騎馬ニ而

罷登候、其後御使番被 仰付、相勤候ニ仍而御免被成、御足輕

組御預、五十歳ニ而病死仕候、右実子拙者十五歳より

定勝様御近習ニ被召仕候、 綱勝様大小姓之御奉公仕

候、親三郎左衛門死去、跡式被 仰付、五十騎へ御入被成候、

其後中小姓ニ被召加、御当代迄御奉公申上、五十騎へ被

召出候、親若年ニ而祖父相果申ニ付而、先祖之由緒

承不申候、以上

小鷹治部左衛門

一、先祖小鷹孫三郎、越後三条馬上ニ而御奉公仕候、

孫三郎隱居仕、聳名跡ニ罷成家督被 仰付、本名ハ

西海枝ニ御座候、右之身立ニ而御奉公仕、高麗大坂両御

陣御手明鉄炮組被 仰付、相勤申候、其後御足輕五十人御

預、又左衛門隱居仕、実子治部左衛門ニ家督被 仰付、其上

又左衛門ニ隱居御扶持被下置候、治部左衛門義、御使役ニ被召

加、其後御足輕組御預、三十人頭迄被 仰付候、拙者儀、右

治部左衛門聳名跡ニ罷成、寛文七年治部左衛門隱居仕、家

督被 仰付候、本名窪田半左衛門ニ男ニ御座候、以上

樋口与三右衛門

一、曾祖父与三右衛門、越後之内荒戸之御城ニ被差置候、

御加増地被下之時、御書未所持仕候、其後宰配頭被

仰付候、右之実子祖父与右衛門、大坂両御陣罷立、其後三十

人頭被 仰付候、右実子親四郎兵衛も大坂両御陣罷立

其後御扶持被下、御部屋御奉公仕候、親家督仕五十石二

罷成、其後御加増弍百石二罷成、以後三百石被下置、長手

御鎧組被 仰付、後御鉄炮組御預、其後三十人頭被

仰付、御奉公仕、病死仕二付而、実子拙者二跡式被

仰付、御奉公仕候、以上

小幡次兵衛

一、祖父兵右衛門、越後御譜代二御座候、上田二被指置、会

津此方迄無恙御奉公仕候、定勝様御代ニ御加増

被下置、其後信夫江被遣候、兵右衛門年寄隱居仕、実子

甚右衛門跡式貳百石被仰付、綱勝様御代、御使番

被仰付、三百石被下置、其以後御足輕鉄炮組五十人御預

被成候、親甚右衛門病死仕、跡式五十石被下置候、以上

鈴木半右衛門

一、鈴木勘助次男同七郎右衛門、定勝様御部屋御奉公

仕ニ付而、新知百石被下置、中ノ間へ被召加、綱勝様

御代百石之御加増、貳百石ニ罷成、同身立番頭被仰付候、

実子無之故、小越与六兵衛二男拙者聲名跡ニ罷成候、

綱勝様御代御近習ニ被召仕、其後御中之間へ被 仰付、以後御

近習御手水番ニ被召加候、御当代ニ七郎右衛門跡式被 仰付、

五十騎組江被 仰付、御奉公仕候、以上

上村藤兵衛

一、曾祖父上村喜左衛門、越後御譜代上田ニ罷有候、山室、妻

有両所知行被下置候、五十騎御奉公相務、御朱印未

所持仕候、会津江御供仕候而足輕組被 仰付、米沢江

御移之後、 景勝様御代隱居仕、祖父藤兵衛家督

被 仰付、其後右之喜左衛門隱居仕候而罷有候、又候

被召出、御鷹部屋将ニ被 仰付、御扶持被下置候 △祖父

藤兵衛、御奉公相勤、定勝様御代御加増拝領、二百石
被仰付、其後信夫江被遣候、其後沢俣へ被遣候而、下平
右近跡役御足輕組五十人被仰付、其より八丁目御鷹匠
衆、御馬買衆年々御上下之時分、御迎為御迎

御見送、八丁之目之將無之二付而、被差置候、年寄申二
付而、綱勝様御代隠居仕候、定勝様御代、親

喜左衛門御部屋住之御奉公仕、其後祖父藤兵衛

隠居仕二付而、御当代二跡式拙者二五十騎被下置候、

当年迄御奉仕候、以上

今井喜右衛門

一、今井源右衛門弟四郎兵衛、新御扶持切米被下之、

綱勝様初而御登之節、先祖御吟味之由ニて新知

五十石拝領仕、御膳御生飯之役被 仰付、御奉公仕候、

四郎兵衛相果後、拙者聲名跡ニ被仰付、跡式相続

仕、同役儀相勤御奉公申上内、五十石御加増被下置候、

拙者本名五十騎之内丸山助兵衛二男ニ御座候、

五十騎へ被召加御奉公仕候、先祖委細之儀は今井

平左衛門可申上候、以上

西方源右衛門

一、祖父清右衛門、越後御譜代、文禄元年高麗御陣

御供仕、其後会津米沢迄御奉公仕、年寄申隠居之上

清左衛門ニ隠居免四人御扶持一世之内拝領仕、跡式之

儀は嫡子主計に被下置候、二男同右近ハ、定勝様

御九歳御部屋住より江戸定詰ニ罷登、御奉公相勤

申二付而、新知五十石拝領仕、御納戸ニ被召加、其後

五十騎へ被召入、源右衛門ニ改名御奉公仕候、拙者儀聟

名跡ニ罷成、慶安元年跡式被仰付、御奉公仕候、拙

者本名福王寺名兵衛末子ニ御座候、以上

阿部瀨兵衛

一、祖父阿部久右衛門、上田御譜代ニ御座候、三条之地ニ

被差置候、其後御国替以後御当地ニて元和四年

病死仕、実子与太郎ニ跡式被 仰付、御奉公相

務、寛永四年ニ御加増拝領貳百石ニ罷成、其後

久右衛門ニ罷成候、明暦元年ニ病死仕、実子喜内

跡式百石ニ被 仰付、無程万治三年ニ病死仕候、若

輩故実子無之ニ付而、榆井六左衛門ニ男拙者跡式

被 仰付候、以上

宮権左衛門

一、先祖之儀は、惣領宮与三左衛門、書上申通ニ御座候 △

拙者親盛右衛門、 定勝様御部屋住之時、御

九歳之時、慶長十七年より御奉公仕、御家督被

遊、兩度御上洛供奉相勤、寛永五年ニ御中ノ間被

召加、新知百石拝領仕、無程御勘定頭被 仰付候、

盛右衛門病死仕、実子拙者ニ跡式五拾石被下置候、

寛永七年より廿五年之御奉公仕候、以上

村山三郎右衛門

一、越後上田御譜代ニ御座候、祖父左近、於越後御

守組 被仰付、御奉公仕、其後御茶詰ニ被 仰付、其以後

御代官役儀被 仰付、御奉公仕候、親庄右衛門ニ跡

役御茶詰御奉公仕候、年寄申五十騎組へ寛永

十二年ニ被召加、正保元年ニ跡式被 仰付、当年迄卅

三年御奉公仕候、以上

林市郎左衛門

一、上田御譜代、 謙信様、 景勝様御二代迄祖父

加兵衛御近習ニ御奉公申上候 △唐人久太郎分

文祿三年二月廿一日被下置 泉沢河内判形

御座候、慶長二年十一月廿三日頸城郡ニて御加増

百石被下置候、証文未所持仕候 △御館一乱之砌、

春日山御城へ籠城仕ニ付而、 景勝様御書一通

被下之候、未所持仕候 △天正年中新発田御

戦ニも御奉公相勤申候、其以後御国替、騎馬之御供仕米

沢へ御移、已後五拾石被下置、五十騎組ニ而御奉公仕、元和

二年祖父加兵衛隠居仕、実子七郎右衛門ニ跡式被

仰付、明暦元年 綱勝様御代迄御奉公仕候、実子

私ニ跡式被下置、当年迄廿二年御奉公申上候、以上

広居又左衛門

一、祖父奎之助儀、広居治部一名ニ御座候、上田ニ罷有

御奉公仕候、 景勝様、 定勝様御二代御守ニ而御

奉公申上候、御番頭被 仰付、五十石之御加増貳百石ニ

被成、五十騎へ被召加、其上信夫之横目被 仰付、

信夫ニて病死仕候、寛永十九年拙者に跡式被

仰付候、以上

青木舎人

一、祖父左門百石被下置候、寛永十三年病死仕、

親善助跡式五十石ニ被 仰付、明暦三年善助病

死仕、実子拙者ニ跡式被下置候、当年迄御奉公仕候、以上

江田五兵衛

一、曾祖父大蔵跡目、実子太郎兵衛ニ被 仰付、天正

九年正月廿日、先祖代々持来候地被下置候、 景勝様

御朱印未所持仕候、泉沢河内ニ御付被御付被成候、其後米

沢二而五十騎へ被召加御奉公仕候　△祖父太郎兵衛実子

五左衛門、十二歳より　定勝様御代御小姓二被仕、後二

五十騎へ被召加、延宝四年迄五十二年御奉公相勤、病

死仕候、実子拙者二跡式被　仰付、御奉公仕候、以上

平賀伝兵衛

一、祖父内蔵之助、越後三条二被差置候、　景勝様被下置候

御朱印　一通未所持仕候、越後会津此方迄御奉公仕、

大坂両御陣罷立候、内蔵之助病死仕、実子伝右衛門二跡

式被　仰付、御奉公申上、病氣二罷成隠居仕候、男子

持不申二付而、高村次郎左衛門二男聲名跡二罷成御奉公仕候、以上

窪弥五左衛門

一、上田御譜代、祖父弥助於越後ニ御守之御奉公申上、

会津米沢迄御奉公仕候、慶長十一年御守御用捨、

御堂御役被 仰付、 定勝様御代迄相勤申候 △親

久左衛門、水原常陸殿御取成ニ而、慶長十七年猪苗代

組之御扶持被下、大坂両御陣共ニ右之身立ニ而相勤

申候、祖父弥助儀八年寄申ニ付隱居仕、跡式五十石

久左衛門ニ被下置候、五十騎へ被召加候、弥助儀は御扶持被下

置、御堂役儀仕候、寛永十一年迄相勤病死仕候、

親久左衛門、江戸 御城之堀普請両度共ニ相務、

五拾騎組 二関谷と申名字今は無し

年寄申隠居仕、跡式拙者ニ被下置候、以上

青木甚右衛門

一、景勝様御代、祖父甚右衛門、越後より米沢迄小知拝領

仕、御守之御奉公仕候、定勝様御代、祖父甚右衛門

御番頭被 仰付、御奉公仕候、其後永代五十騎へ被召加

御奉公仕、病死仕ニ付而、親甚右衛門跡式被 仰付、御奉

公申上候、年寄申隠居仕、延宝元年ニ家督拙者ニ被

仰付候、以上

関谷八兵衛

一、祖父弥兵衛、越後御譜代、会津米沢迄御手明

御奉公仕番頭仕候、元和三年ニ親与次右衛門跡式

被下置、五十石拝領仕、右之御奉公番頭迄仕処ニ、

生善院様以思召、慶安元年ニ五十騎へ被召加御奉公仕、

明暦三年隱居仕、即拙者五十騎江被召、加御奉公申上候、以上

外山金十郎

一、先祖越後御譜代ニ御座候、祖父外山源七御手明之

御奉公申候、親縫殿之助 仙洞院様へ御奉公仕、御遠

去故御手明へ被召返候所ニ、甘天草御陣へも御使相勤、其後五

十騎へ被召加、拙者御近習之御奉公申上内、親縫殿之助

相果申、右五十石致拝領、御一代御奉公申上候、以上

弥七左衛門

中村四郎右衛門

一、中村甚助、御堂之御奉公仕、其後 景勝様御遠

去被遊候刻、御供仕候、世悴九兵衛甚助様生々内より

御扶持ニ而御歩行之御奉公仕、其刻新知百石被下置、

御納戸へ被召加、江戸定詰仕病死仕候、実子兵左衛門ニ

百石家督被 仰付、御納戸十人頭仕候、拙者御扶持

方之内、堀内二郎兵衛二男ニ御座候、寛文六年跡式

式十五石被 仰付、五十騎へ被召加候、当年迄無恙

御奉公仕候、以上

加藤甚右衛門

一、加藤縫殿之助、拙者親ニ御座候、御奉公之儀御守並ニ
罷有、其以後中間之将老人ニ被 仰付、相勤申候、五十騎へ
被召加候、年寄申隠居仕、実子無御座ニ付、拙者贅
名跡ニ罷成候、実父高橋市右衛門子ニ御座候、以上

渡部源左衛門

一、祖父源左衛門、越後御譜代御手明之御奉公申上、会津ニ而
百石被下置候、御当代御国交ニ付而五十石ニ被 仰付、
御奉公申上候所ニ、慶長十九年大坂両御陣父子共ニ御供仕、
相勤申所ニ、御手明御触頭被 仰付、其後寛文六年ニ
五十騎へ被召加、病死仕ニ付而、実子拙者ニ跡式被

庄左衛門

仰付、五十騎之御奉公申上候、已上

清水十兵衛

一、本御手明之内、清水次右衛門我等母方ニ御座候、次右衛門相
果申ニ付而、御扶持親藤右衛門ニ被下置候、御奉公相勤御守ニ
被召加、御知行拝領仕、上意ニて清水名字ニ被 仰付候、
同次右衛門、当年四十七年已前ニ相果申候、先祖之様子
不存候 △本名之儀御奉公相務申候得共、拙者幼少ニ而親ニ
後申故、本名相立不申候 △我等親先祖本名香知
右近、御朱印壺通幕之紋共ニ伝置申候、母方は
大槻庄左衛門、御感狀ニ通所持仕候、以上

有江与右衛門

一、本名倉加野惣領海浮と申候、拙者曾祖父ニ御座候、病者故弟下綱ニ相渡候、有江治郎左衛門、拙者祖父ニ御座候、他名続申有江ニ罷成候、越後御譜代ニ御座候、御手明御奉公仕候、親与右衛門廿五石被下置、御手明之御奉公申上候、御茶詰役迄仕候、已後病死仕、拙者跡式被仰付、明暦二年ニ五十騎へ被召加、御奉公仕候、以上

富沢奎之助

一、拙者祖父主計、関東境ひたへと申所ニ被差置、御奉公仕候、拙者親与右衛門、上田江被召寄候、祖父主計ひたへにて

病死仕候、親越後、会津此方迄小知被下置、御国替之

砌病死仕候、拙者兄又蔵ニ親知行被下置、御手明之御

奉公仕候、大坂両御陣ニ罷立、元和五年ニ病死仕候、右

兄又蔵知行拙者ニ被下置、其後御守ニ被召仕、万治元年ニ

五十騎江被召加、御奉公仕候

青木又左衛門

一、先祖之儀、同姓新右衛門所より書付指上通ニ御座候 △親

角兵衛、定勝様御部屋住之時分、御扶持切米被下置、

御奉公申上候所ニ、三十已前より眼病故御守役不罷成ニ付而、

綱勝様御代、右之御扶持拙者ニ被下置、御奉公申上候、当

代ニ至御膳役儀被 仰付、江戸老年番相勤申候、以上

樋口長兵衛

一、先祖之儀、同名与三右衛門書上申通ニ御座候 △親太左衛門

儀は、樋口与右衛門二男ニ御座候、兄四郎兵衛ニ被下置候御扶持

御切米共ニ太郎右衛門ニ被下置、去年迄八年御奉公、致隠居、拙者ニ

跡式被仰付候、以上

柳半兵衛

一、曾祖父新右衛門、関東之内猿か京ニ罷有候、 謙信様関

東御陣之時、御先懸仕付而、新右衛門妻子三人春日山へ

証人ニ被召上、新右衛門討死仕候、御帰陣之後、三人証人之内

姉は大善院ニ被下候、則祖父幼少故成人之上ハ御取立可被成

由 上意ニ而、大善院ニ御預被成候、無程御遠去被遊、

景勝様御代より御手明之御奉公仕候、 定勝様御代ニ

御膳部ニ被 仰付、其後祖父隱居仕、拙者親江戸役人ニ

被 仰付、上野介様へ御賄役被召連、親隱居仕、拙者ニ

跡式被 仰付、五十騎へ被召加候、以上

丸山源三郎

一、越後三条ニ丸山助兵衛被差置候、其以後五十騎へ被

召加御奉公申上候 △定勝様御代弐百石被下置、

御奉公仕候、実子無御座候ニ付而、山田甚左衛門子弥兵衛

養子二仕差置申候、助兵衛病死仕、已後助兵衛子

四男七右衛門二跡式被 仰付、五十石被下置候、丸山七右衛門と

申候、弥兵衛儀無足ニて罷有所ニ、西海枝造酒御取成ニ付而、

弥兵衛二五人扶持被下置候、已後今井四郎兵衛名跡ニ

罷成候ニ付而、御扶持之儀拙者ニ讓申候、五十騎之御

奉公相勤申候、 綱勝様御代御烏打ニ被 仰付

御奉公仕候、以上

佐藤弥市右衛門

一、拙者佐藤与五左衛門二男ニ御座候、同姓祖父佐藤与左衛門

二男九左衛門、実子無御座ニ付而、一家之儀ニ御座候間、

名跡ニ罷成、当年迄十六年御奉公仕候、先祖之品

佐藤平左衛門、同瀬兵衛可申上候、以上

築取五郎兵衛

一、親掃部、越後御譜代ニ御座候、大むと申所ニ七騎居

申候、其節泉沢河内越後ニて御出頭之刻、河内七騎

共ニ御附被成候、河内病死之後、景勝様 上意ニ而、親

掃部五十騎へ被召加、御奉公仕候、以上

内田善助

一、内田伝之丞、拙者祖父ニ御座候、越後上田御譜代御奉公

相務、親善左衛門実子無之ニ付、本手明之内丸山四郎右衛門

越後より一門之内ニ候間、二男名跡ニ罷成奉公仕候、越後ニ而
伝之丞走廻高名仕候、其印ニハ景勝様御書二通、
直江山城守殿状壱通、未所持仕候、以上

武頭

ノ四拾五人

上村三郎兵衛

一、祖父上村三郎左衛門ニは親内膳儀二男ニ御座候、越後
此方迄御供申上候、品々上村藤兵衛書立差上可申候、

高麗御陣御供仕、其後大坂兩御陣之砌ハ眼病故御軍役

不罷成、聶ニ御座候樋口四郎兵衛頼陣代為致、無恙相勤

申候、会津へ御移之時分ハ親内膳ニ貳百石被下置、御

手明組被 仰付、米沢迄差引仕申処ニ、組中より云分

申出、其二付而蒙御勘氣罷有候、其已後被召出六十石

被下置候 △元和六年親隱居仕、實施拙者同年

十五歳ニ而家督被 仰付、景勝様御代十七歳ニ而

江戸御番手ニ罷登候、定勝様御代、戌之年之

御上洛御供仕相務候、綱勝様御代、御使番

被 仰付、其以後信夫沢俣之地ニ被指置、御足輕組五十人

被 仰付、毎年差引仕、無程米沢へ罷越、翌年三十人

頭被 仰付、当年迄五十八年之御奉公仕候

高野刑部

一、祖父高野与左衛門、越後ニ而御厩御預、高麗御陣へ罷立、

御帰陣之後、組之御中間喧嘩仕ニ付而、与左衛門儀御勘気、

無程病死仕候由承伝候、拙者親刑部、越後より無

足ニて会津御供仕候、会津ニ而猪苗代並之御扶持

被下置、其上傍輩之十人頭被 仰付、当地へ御供仕、

大坂両御陣ニ罷立候、御帰陣之後御知行四十石拝

領仕、其後五十騎へ被召、加御奉公仕候、両度御加増

拝領仕、御足輕頭被 仰付、右之刑部四十ヶ年以前二
病死仕、拙者ニ跡式被 仰付、御奉公相務申候、以上

河野弥左衛門

一、祖父河野弥左衛門、越後之内三条ニ差置候、出雲

田庄境村大崎之内式ヶ所知行ニ被下置御奉公仕、

会津米沢迄御供仕、大坂両御陣ニ罷立、御奉公仕候、

元和七年ニ御加増被下置式百石ニ罷成、同九年ニ

三十人頭被仰付、御上洛之御供仕、其以後三百石ニ被

仰付候 △寛永十年ニ築川城主ニ被 仰付、相務候、

弥左衛門実子三助ハ、 定勝様御近習ニ被召仕候、後

大小姓並之御奉公相勤、同十五年ニ病死仕、名跡

無御座ニ付而、拙者儀楡井太兵衛実子ニ御座候、右之

弥左衛門ニ八孫ニ御座候ニ付而名跡ニ仕、弥左衛門儀、

寛永廿年八月迄御城番相勤、築川ニ而病死

仕ニ付、拙者幼少ニ御座候故、跡式五十石ニ被 仰付候、

万治三年御加増被下置式百石ニ罷成、寛文十一年ニ

御足輕組被 仰付、当年迄三十五年御奉公仕候、以上

矢嶋主馬

一、祖父矢嶋大学、越後御譜代ニ而五十石拝領仕、五十騎ニ

罷有、元和四年ニ病死仕、実子勘左衛門ニ跡式五十石

被下置候、 定勝様御代、寛永十二年ニ御加増

拝領貳百石ニ罷成、同十三年ニ江戸御城石垣御普請

大割之役儀被 仰付候、無恙相勤、 綱勝様御代

慶安三年ニ江戸御普請奉行被 仰付相勤、同四年ニ

病死仕、実子拙者ニ貳百石被下置、寛文元年ニ吉利

支丹御改之御横目被 仰付相勤、同二年ニ江戸

老年番相勤、同三年ニ中小姓ニ被召加、同四年ニ

五十騎被召返、同七年二十人頭罷成、当年迄廿七年

御奉公申上候、以上

一、祖父北沢孫右衛門、元和二年ニ隱居仕、実子五左衛門ニ跡式

被 仰付、同五年 御上洛之御供仕相勤、寛永四年ニ

御加増下置貳百石ニ罷成、同十一年ニ御上洛之御供

仕、正保三年ニ五左衛門病死仕、実子無御座ニ付、北沢五左衛門

ニ男拙者ニ跡式被下置、貳百石ニ罷成候、寛文二年江戸

老年番相勤、当年迄卅二年御奉公仕候、以上

樋口惣左衛門

一、祖父与三右衛門、越後之内荒戸之御城ニ被指置候、其

以後宰配頭被 仰付候、親与右衛門、大坂両御陣ニ罷立、其以後

三十人頭被 仰付候、樋口玄蕃義は右之与三右衛門弟ニ

石墨と申名字今は無し

御座候、直江山城守殿ニ罷有新知四百石下置、三十人

之組頭ニ罷成候、其以後蒙勘気罷有候所ニ、定勝様

御代ニ被召出、三百石下置五十騎被召加候、安田筑前、富所

伯耆、楠川中務、右之衆同前ニ御前御へ御夜詰ニ被召出候、寛

永十壹年ニ病死仕、実子無之ニ付而、存生之内樋口

与右衛門三男玄蕃為ニ八甥ニ御座候、名跡ニ罷成百石被

下置、会津江御勢遣ニも罷立候、其以後御加増拝領

貳百石ニ罷成、当年迄四十四年御奉公仕候、以上

石墨長右衛門

一、祖父次兵衛、越後御代御奉公仕候、御知行被下置候、

景勝様御朱印未所持仕候、実子長右衛門ニ跡式五十

石被下置、正保元年ニ御加増拝領式百石ニ罷成、承応

三年ニ病死仕、実子拙者ニ跡式式百石被下置、当年

迄廿四年御奉公仕候、以上

上野次郎右衛門

一、上野中務実子無御座故、泉沢河内甥二郎右衛門、河内養

子ニ仕、中務所へ聲名跡ニ仕、上野名字相続仕、六拾石

被下置、五十騎ニ被召加、寛永二年ニ、定勝様御代御

加増拝領式百石ニ罷成、年寄申ニ付而、五十騎の内青木

左内四男弥兵衛聲名跡ニ仕、慶安二年ニ次郎右衛門

隠居仕、弥兵衛ニ弍百石被下置、万治三年ニ病死仕、実

子無御座ニ付而、与板組之内栃本弥次右衛門ニ男拙者聲

名跡ニ仕、跡式五十石被下置、寛文二年ニ、綱勝様

御代御加増拝領二百石ニ罷成、当年迄十八年御奉公仕候、以上

△景虎様 景勝様、中務ニ被下置候御書御

感状、未所持仕候、以上

榆井六郎兵衛

一、祖父大膳上田御譜代、上田より御加勢被遣候時分、御

足輕組被 仰付、其上宰配拝領仕、未所持仕候、慶長

六年ニ会津より御足輕召連罷越由申伝候、大膳男子

持不申付而、阿部久右衛門弟六左衛門聶名跡二仕、慶長十九年

大坂両御陣御供仕、定勝様御代御加増拝領仕、寅之

歳御上洛御供仕、寛永廿年江戸御留守番被

仰付、其後会津御勢遣二侍組之出足輕召連罷越候、

正保三年二御足輕組被仰付、明暦三年二三十人頭被

仰付、其以後年寄申隠居仕、跡式拙者二百石被下置

候、当年迄拾五年御奉公仕候、以上

南雲茂左衛門

一、曾祖父治部右衛門、越後御譜代、信州於上野原二御一戦

之刻、政景様、景虎様より御感状被下置候、

未所持仕候、右治部左衛門実子祖父茂左衛門二跡式被仰付、

越後会津米沢迄御供仕、御奉公申上候所ニ、定勝様

御代足輕組被仰付、其以後三十人頭被仰付、祖父

茂左衛門実子親茂左衛門二跡式被仰付、定勝様

御代御加増拝領、綱勝様御代御使番被仰付、

其砌勘右衛門二罷成候、其以後三十人頭被仰付、御奉公

仕候所ニ、無程病人二罷成隠居仕、実子拙者ニ跡式

五十石被下置、当年迄十三年御奉公仕候、以上

登坂与右衛門

一、拙者五代已前、登坂与右衛門、越後ニ而三郎様と

御取合之時分、右之与右衛門御執下ニ被指置、御軍法懸引

之御役等被 仰付、然所ニ北条家より北条安芸と申者大将ニ而

関東より上田ニ責入申ニ付而、与右衛門御加勢ニ被遣候、後ニ

被下置候御書、未所持仕候、其上度々御取合ニ深手ニ及、

三ヶ所負申、七日過相果申候段伝候、実子与五郎ニ

跡式被 仰付、上田ニ罷有、与右衛門同前ニ御奉公相勤申

刻、御書被下置候、其後関東境目直路之地

御城被 仰付候時分、給人五人前々之处被下置候、御書所持

仕候、後ニ左京と申候、会津より御当地江御供仕、三年目ニ

病死仕候、右実子与五郎ニ跡式被 仰付、与右衛門ニ罷成、三年

登坂利左衛門跡也、登坂次兵衛

安部与兵衛先

一、先祖之義、代々越後譜代ニ御座候、古来之義ハ登坂与一右衛門可申上候、祖父与右衛門義ハ登坂左京四男ニ御座候、

一、景勝様御代、祖父与右衛門義、猪苗代組ニ而御奉公仕候、大坂両御陣相勤

御帰陣之後、元和弍年ニ新知百石被下置、五十キヘ召加候、定勝様御代

御加増被下置弍百石ニ罷成、綱勝様御代年寄隠居仕、実子与右衛門家督被仰付

百石被下置候

一、親与右衛門、延宝三年病死仕、実子私ニ跡式被仰付、御奉公申上候、以上

御奉行、景勝様江戸御登ニ御供仕、在番中ニ病死仕候、

実子与五郎、十四歳ニ而跡式被 仰付御奉公仕、惣右衛門と申候、

綱勝様御代、御足輕組五十人被 仰付、御奉公相勤、江戸

在番中ニ病死仕候、実子拙者二十八歳ニ而跡式百石被下置、

当年迄十八年御奉公仕候、右御書八通未所持仕候、

山田覚右衛門

一、祖父縫殿、越後蔵王堂に罷在御奉公仕候、於知行被下置

証文所持仕候、会津へ御移之時御供仕式百石被下置、会津ニ而

病死仕候、実子縫殿十三歳ニ而跡式被 仰付、 景勝様

御代御近習ニ被召仕、米沢ニ而六十石被下置、成人仕五十騎ニ而

御奉公仕候、 定勝様御代、 百四拾石拝領貳百石ニ罷成、
綱勝様御代、 正保三年御足輕五十人被 仰付、 四年ニ御
加増拝領三百石ニ罷成、 同年庭坂武主被 仰付、 御
足輕組共ニ兩様相勤、 病死仕候、 実子拙者ニ跡式百
石被下置、 当年迄十五年御奉公仕候、 以上

山吉助右衛門

一、 先祖代々越後三条ニ罷有御奉公仕候、 曾祖父山吉
右衛門、 三条ニ而病死仕、 祖父助右衛門ニ跡式被 仰付、 御
国替ニ付而会津へ御供仕候、 翌年伏見之御留守居
千坂対馬并温井と祖父助右衛門被指置候、 米沢へ御

移大坂両御陣御供仕、其已後卅挺鎧被 仰付、御上洛

之御先乗仕候、其已後病死仕、実子七郎左衛門義ハ、

定勝様御幼少之時分より、 綱勝様御代御代迄五十ヶ年

各二御奉公相勤、祖父助右衛門病死仕、七郎右衛門跡式式

百石被下置、其已後御鎧組五十人被 仰付、御加増拝領

三百石ニ罷成、御当代迄御奉公仕、年寄隠居仕、実子拙者

家督五十石被下置候、以上

吉田源左衛門

一、源左衛門、越後之内妻有と申所ニ罷有候、御奉公仕、年

寄病死仕、実子与惣ニ跡式被下置御奉公仕候、右両人ニ

被下置候御朱印御感状四通、未所持仕候、与惣病死

仕、実子源左衛門と申候、御国替ニ付而会津御供仕罷

越所ニ、此者之舅矢野因幡守と申者、会津御供不仕ニ付而

被遊御腹立候而、源左衛門御勘氣ニ被 仰付、猪苗代と申

所ニ指置、無程御当地へ御越被成ニ付而、御供仕罷越候得は、

猪苗代ニ罷成候、御扶持ニ而御奉公仕候所ニ、猪苗代組之内

棚田武兵衛と申者、妻子客居屋ニ取籠罷有候ニ付而、右之

棚田討取山城守殿へ申上候得は、被遊御褒美、御知行百石

被下置、五十騎へ被召加、男子持不申ニ付而、猪苗代之内河野辺

内匠次男彦七と申者賀ニ取、源左病死仕、跡式彦七ニ五

十石被下置、其已後源左衛門と申候、正保元年ニ御加増拝領
式百石ニ罷成、明暦三年ニ病死仕候、実子拙者ニ跡式百
石被下置、当年迄廿壹年御奉公仕候、以上

山吉七郎右衛門

一、先祖山吉弥次郎、実子同丹波、越後三条ニ御城代被
仰付候其時分、北条氏直公より孫次郎へ下置候御書

二通所持仕候、山吉丹後跡式、同氏源右衛門、能登越中
両御陣数鎗鉄砲、大小箆要月様ニ而御奉公仕候、右之

源左衛門子源左衛門代ニ罷成、御勘気ニ罷成、牢人仕候
所ニ、先祖御尋被成、從他国被召返御知行六拾石被下置

五拾騎被召加候、右源左衛門実子無御座ニ付而、深沢平右衛門

四男五左衛門聲名跡ニ仕、源左衛門隱居仕、跡式五左衛門ニ

被 仰付、御奉行仕候、万治三年御加増拝領貳百石ニ罷成、

其後十人頭仕御奉公申上候、寛文十二年ニ病死仕候、

実子拙者ニ跡式五十石被下置候、当年迄六年

御奉公仕候、以上

山田十右衛門

一、曾祖父山田入道、越後上田之内君帰と申所ニ罷有候、

其以後、沢小屋広瀬口へ一手之頭ニ被 仰付、被指置候

と承伝候、其砌書狀指上申候刻、御返書未所持仕候、

入道跡式十右衛門 二被 仰付候、会津此方迄御奉公仕候、

右十右衛門男子無御座 二付而、孫 二御座候拙者 二跡式

六拾石被下置候、当年迄五十壹年御奉公仕候、以上

行方六右衛門

一、曾祖父六右衛門、府内仲之内役儀被 仰付、

景勝様より天正九年 二為堪忍分、藪上之内坂野

分被下置候、御朱印 二通所持仕候、從 輝虎様、

景勝様被下置御書 二通所持仕候、曾祖父六右衛門

病死仕、跡式実子左馬 二五十石被下置候、後 二六右衛門 二

罷成、慶長十六年御手明鉄炮組十人被 仰付、弐

百石拝領仕、六右衛門寛永八年ニ病死仕、実子長五郎ニ
跡式五十石被下置、其以後六右衛門ニ罷成候、病氣故寛
文三年ニ隱居仕、男子無御座ニ付小幡弥五右衛門ニ
男贅名跡ニ仕、跡式五十石被下置、当年迄十五
年御奉公申上候、以上

林六郎右衛門

一、先祖五郎右衛門、御奉公仕病死申候、跡式ハ実子
源五郎ニ被下置、無程病死、跡式実子藤七郎ニ
被 仰付、御奉公仕無恙相勤、致病死候、実子与次右衛門
若輩故、叔父藤左衛門陣代仕、大坂両御陣段母衣十人

御預御軍役相勤、其以後与次右衛門二軍役相渡申候、
与次右衛門、寛文八年二病死仕、実子拙者二跡式被
仰付、御奉公仕候、以上

小幡九兵衛

一、曾祖父九兵衛、越後御譜代御奉公仕候、天正十
年二月廿三日、宿送之御朱印被下置候、御書出
未所持仕候、越後御国交已後、米沢ニ而本知之内
五十石被下置候、元和二年御加増拝領式百石ニ罷成候、
平林蔵人判形所持仕候、右九兵衛実子無之ニ付而、
猪苗代組上村名左衛門実子右衛門二名跡申立、右之

九兵衛二御知行無相違貳百石、祖父右衛門二被下置候、実子源右衛門、右衛門跡式五十石被下候、延宝五年二病死仕、跡式実子拙者二被 仰付候、以上

福王寺源太

一、曾祖父大膳、越後上田御譜代二而御奉公仕、先祖二被下置候御書御感状、惣領福王寺仙助所持仕候、末子故、大膳義 景勝様御代大小姓之御奉公仕、御知行拝領仕候、其以後五十騎へ被召出、御加増拝領貳百石二罷成、病死仕、実子木工二跡式六拾石被下置、江戸御城御普請奉行相勤、其後延宝二年二病死、実子源太二

与三左衛門

被下置候、以上

笠原伝兵衛

一、景勝様御代、曾祖父喜助 二天正九年御知行被下置

証文所持仕候、祖父式部、越後会津米沢迄御奉

公仕、定勝様御代御加増被下置式百石 二罷成、御留守

番被 仰付、後 二式部 二罷成候、定勝様御代より御当代迄

御奉公仕、病死申候 二付而、実子拙者 二跡式被 仰付候、已上

黒井四郎左衛門

一、同氏四郎左衛門、越後三条 二被差置候、右四郎右衛門 二男も

四郎左衛門と申候、定勝様御部屋住之時分、御歩行 二

被召仕、新知五十石被下置、寛永十五年御加増拝領

貳百石ニ罷成、寛永廿年御留守居番被 仰付、江戸ニ而

病死仕、実子無御座ニ付而聲名跡ニ仕、丸山助兵衛ニ

男拙者ニ廿五石被下置候、延宝二年より御奉公仕候、以上

江口權十郎

一、江口式部、上田ニ而五十騎之御奉公申上、越後会津米沢

迄御供申上隱居仕、嫡子織部ニ跡目被下置、五十騎ニ罷有、

織部男子無御座ニ付而、五十騎組之内渡部庄右衛門弟

甚助聲名跡ニ申定、跡式被 仰付候、甚助他名より江口

名字相続ニ付而、先祖之御書御感状式部

二男善五郎二、子々孫々迄所持申様二と相讓申二付而、未同姓

与右衛門所二所持仕候、名字惣領之義は拙者名字二御座候、

甚助病死仕、跡式五十石実子与三左衛門二被下置候、与三左衛門

男子持不申二付而、与板組之内阿部伝右衛門弟拙者聳

名跡二仕、寛文十年二与三左衛門隠居仕、廿五石拙者

跡目被 仰付、当年迄八年御奉公仕候、以上

綿貫孫兵衛

一、景勝様御代、親孫兵衛関東小田原御陣、奥州、名子屋、

高麗御陣迄御供仕候、 定勝様御代御守之御奉公

仕、其以後寛永十年五十騎へ被召加、正保三年二病

死仕、実子拙者ニ五十石被下置、永代五十騎ニ被 仰付候、
当年迄卅二年御奉公仕候、以上

平井伊右衛門

一、祖父奉納平兵衛、越後栃尾之内奉納兵部沢と申所被下置
候所ニ、其地悪所ニ御座候ニ付御訴訟仕、替地今井縫殿分
被下置候、御朱印所持仕候、越後御国替之時分、右之
平兵衛病氣故会津へ御供不仕、平井と申所ニ罷有、其後
米沢へ罷越、在所名乗平井ニ罷成候、実子弥五右衛門、
景勝様御代廿五石被下置、其以後 定勝様御代御加増
拝領五十石ニ罷成、御守之番頭被 仰付候、弥五右衛門存生之

内永代五十騎被仰付、親隱居仕、実子拙者二五拾石被下

置、当年迄廿壹年御奉公申上候、以上

平石新五兵衛

一、祖父新兵衛、米沢二而御手明頭被 仰付、其後五十騎へ被召加、

親彦右衛門病死仕、実子拙者二跡式廿五石被下置候、当

年迄八年御奉公申上候、以上

木村専右衛門

一、越後二而祖父勘右衛門被召仕候、身立之儀御夫等六人之内二而

御奉公申上候、天正十年之頃被遊御上洛、御下向新発田へ

御出馬被成候時、赤野川笹堀と申所二御張陣、其節御奉公之段

被遊御感、北条之内吉田与惣分被下置候、御判形未

所持仕候、其後所々御出馬之時分も御奉公相務、祖父

勘右衛門会津米沢江御供仕、年寄隠居仕、実子仙右衛門二

家督被 仰付、寛永十三年 定勝様、祖父勘右衛門

御奉公之段被聞召上、被遊御感、其上金子拝領仕候、

親専右衛門、御守番頭被 仰付、其後正保三年二五十騎へ

被召加候、跡式五十石拙者二被下置、当年迄卅年

御奉公仕候、以上

豊野清右衛門

一、祖父左近弟惣左衛門、御守ニて御奉公仕候、元和六年二

病死仕、実子清右衛門二跡式五十石被下置候、委細之

儀は豊野庄兵衛可申上候、拙者親清右衛門、御守二而御

奉公申上候、正保二年二御堂之将被 仰付、寛文二年二

病死仕、実子拙者二跡式五十石被下置候而、永代

五十騎被召加候、当年迄十五年御奉公申上候、以上

南斎盛右衛門

一、親盛右衛門、右八本御手明之御奉公申上候、景勝様御

代御守二被召加、定勝様 綱勝様御奉公申上候、其

後御守之組頭被 仰付、其以後永代五十騎へ被召加、

無程病死仕、実子拙者二跡式五十石被下置、当年

迄十三年御奉公申上候、以上

高橋七右衛門

一、拙者本名ハ浅間次右衛門と申候、拙者祖父高橋善兵衛

右次右衛門実子ニ御座候、高橋隼人と申者之名跡ニ罷成

候、右隼人身立此方ニ而御手明ニ御座候、隼人年寄隠

居仕、祖父善兵衛ニ廿五石被下置、其以後善兵衛御守ニ被

仰付、其上御番頭ニ被成置、已後御茶役被 仰付、御加増

拝領五十石ニ罷成、十一年勤年寄申ニ付而、永代五十

騎ニ被召加、後ニ隠居仕、実子主税ニ五拾石被下置、無程

病死仕、跡式実子拙者ニ被 仰付、当年迄廿二年

御奉公申上候、以上

熊倉權之助

一、祖父次兵衛、御守ニ被召仕、年寄申ニ付而御納戸へ被召加、

寛永十四年ニ病死仕、実子太郎兵衛ニ跡式五十石被

下置、右之身立ニ而御奉公仕、寛文三年ニ病死仕、実子

拙者ニ跡式五十石被下置、五十騎江被召加、当年迄十五年

御奉公申上候、以上

下垣与五兵衛

一、定勝様御部屋住之時分、拙者親兵左衛門御徒

之御奉公仕、其以後旅御作事ニ被召加御奉公申上候、

一、定勝様御遠行以後、五十騎被召加、綱勝様始而

御入部之歳、右之身立ニ被召返、御奉公仕候、御吟味之上

親兵左衛門ニ新知五十石拝領仕、御納戸ニ被召仕候、其以後

万治四年ニ病死仕、実子拙者ニ跡式五十石被下

置、永代五十騎ニ被召加候、当年迄十六年御奉公申上候、以上

土田助兵衛

一、定勝様御代御守番頭被 仰付、正保二年ニ病死

仕、跡式実子与兵衛ニ五十石被下置、明暦二年ニ病

死仕、男子持不申ニ付、拙者御手明之内土田奎右衛門子

聶名跡ニ仕、五十石跡式被下置候、当年迄廿二年

御奉公申上候、以上

水落九右衛門

一、祖父越後御譜代、会津迄御知行百石被下置、御書

所持仕候、親九右衛門儀、米沢御移之時、信夫為御給地

長谷川善助、親九右衛門兩人被遣相勤、寛永三年二病

死仕、実子拙者若輩故姉婿武藤十左衛門陣代仕、

五十石被下置、拙者成人仕二付而、寛永十六年二跡式

被下置、五十石二罷成候、当年迄卅九年御奉公申上候、已上

佐藤清右衛門

一、越後上田御譜代佐藤太郎左衛門、広瀬之内鷹待山二

籠城仕時、本庄清七郎天蓋倉と申城討取、城之

内へ責入討死仕候、右太郎左衛門嫡子庄左衛門、新発田御陣

九月二日ニ罷出相務死去候、祖父源右衛門若輩故

御手明ニ被召仕、其後御守ニ被召加、定勝様御代ニ五

十騎へ被召加、病死仕、嫡子源右衛門御手明ニ被召仕候、

其後五十騎被召加候、越後ニ而御朱印拝領仕候、

于今所持申候、当年迄廿八年御奉公仕候、以上

清水藤左衛門

一、祖父清水藤八郎、越後坂戸山御城下大野川之

向浦沢之御城ニ被差置候刻、関東一乱之砌相働

数多討取、無恙御城守、依之御感状被下置、右之外数

度之御陣ニ御供仕、御感状三通未所持仕候、会津

御国替之時分、病氣故御供不仕、御跡より罷越、無程病

死仕候、親藤左衛門若輩故鳥山伝右衛門陣代仕候、

綱勝様御代。慶安四年五十騎へ被召加候、明暦二

年病死仕、実子拙者ニ跡式五十石被下置、当年

迄廿壹年御奉公申上候、以上

山口甚左衛門

一、祖父彦兵、衛越後上田より御守之御奉公申上候、

景勝様御代、元和五年ニ永代五十騎へ被召加、無

程病死仕、男子持不申付而、孫二御座候拙者二跡式廿

五石被下置、当年迄式十七年御奉公申上候、以上

山形九左衛門

一、祖父九左衛門、御守之御番頭被 仰付、御奉公仕候、無程

病死仕、実子九左衛門二跡式廿五石被下置、御守之御奉

公仕、其以後御代参被 仰付、延宝三年二隱居仕、跡目

拙者二被下置、五十騎へ被召加御奉公仕候、以上

小杉吉兵衛

一、祖父次郎左衛門義、越後会津迄御供仕、会津二而病死

仕、実子与右衛門二五十石被下置候而、五十騎之御奉公申

上、米沢迄御供仕候、其已後江戸御納戸被仰付、七年御

奉公仕所ニ、御勘氣ニ被 仰付、其以後被召出御扶持被下置、

病死仕候、拙者幼少故御扶持被召上、成人之上、寛永

十八年拙者義御歩行ニ被召加相勤、正保三年ニ五十騎へ

被召加、当年迄三拾二年御奉公申上候、以上

上松四郎右衛門

一、祖父弥兵衛、越後春日山ニ罷有候、其以後三条之御

城七騎衆之内へ被召加、被指置候、其後会津へ御移之

時分も御供仕罷越候、拙者親小左衛門と申候、大坂御陣ニ

致御供討死仕候、拙者上杉名字之庶子ニ御座候、

寛永三年二御扶持拝領、松木石見殿組二而御奉

公仕、其後五十騎へ被召仕候、以上

与一右衛門

村山吉之丞

一、拙者親与右衛門義、同氏弥七左衛門弟二御座候、幼稚之時分御

小姫様へ被召仕、其以後御暇被下置砌、式人御扶持二五石拝領

仕、五十騎へ被召加御奉公申上候、綱勝様御代御烏打二被

仰付候、祖父与右衛門江戸二而隠居仕罷下刻、三

人御扶持被下置、米沢御納戸役被 仰付、年寄申二

付而右之御扶持指上候処二、親与右衛門二被下置候得由

申上候得は、式人御扶持二五石御加恩拝領仕、四人御

扶持二十石ニ罷成、延宝四年ニ病死仕、跡式拙者ニ

被下置候、委同氏弥五左衛門可申上候、以上

助左衛門

山田主税

一、拙者山田兵右衛門二男ニ御座候、弓稽古仕段被聞召

上、寛文十二年ニ新御扶持拝領仕候、惣領之義ハ山田

権左衛門ニ御座候、当年迄六年御奉公申上候、以上

小黒庄八

一、祖父盛衛、越後御譜代五十騎ニ被召仕、五人

御扶持被下置、御奉公仕致病死、実子八右衛門

定勝様御部屋住之御奉公仕、式人御扶持ニ七

石被下置、寛永十八年二盛衛病死仕、跡式実

子八右衛門二盛衛五人御扶持被下置、七人御扶持二七石二

罷成候、八右衛門御奉公相勤病死仕、実子拙者二

跡式、若輩故五人御扶持二五石被下置候、当年迄三

十七年御奉公申上候、以上

平賀長左衛門

一、養父六兵衛、猪苗代組二而大坂御陣二御供仕、其

後江戸御堀御普請二罷登候、相勤候已後、猪苗代

組五十人頭被 仰付、寛文五年二五十騎へ被召加、同

八年二病死仕、拙者清水内蔵之助末子二御座候、聶

名跡二罷成、当年迄十年御奉公申上候、以上

山田七兵衛

一、曾祖父内匠、越後御国替之砌病氣故御供不仕、

其以後慶長六年米沢御移已後御扶持被下置、猪苗

代二被召仕候、同十六年二病死仕、親新右衛門跡式被下

置候、大坂両御陣相勤、寛永十二年二猪苗代五

十人頭被 仰付、寛文五年二五十騎へ被召加、同十二年二

隠居仕、跡式実子拙者二被 仰付、御奉公申上候、以上

武頭

ノ 四拾五人

都合貳百三拾壱人

延宝五丁巳歳八月吉日 国分次右衛門写

